

2019年(令和元年)度 事業報告

特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会

I. 次代を担う青少年の育成事業の取り組み

1. 第38回サマーショートボランティア活動計画事業

(共同募金配分金事業・静岡県議会ボランティア推進議員連盟助成金事業)

夏休みを利用したボランティア活動体験プログラムとして県内262箇所の社会福祉施設や社会教育施設での活動を通して、福祉・ボランティアに対する理解を深めるとともに、自分の進路を考え、社会に目を向ける機会とすることを目的に実施する。
(昭和57年より実施し、2019年度38回目)



(1)事業概要

① 取り組み

3月	次年度受け入れ打診
4月	ボランティア受け入れ依頼(受け入れ施設262施設)
5月14日～	参加者募集(締め切り6月19日)
6月下旬	参加者調整作業(社会福祉協議会担当者・受け入れ施設担当者との協働作業)
7月上旬	活動先の決定・参加者への決定通知発送
7月下旬	事前研修会(県下9会場・追加研修会1会場)
8月1日～30日	活動期間 施設訪問
9月～2月	個人カード返却
	アンケート(参加者・学校・施設)の入力・分析
2月～3月	報告書の作成・参加者募集への発送

② 参加者数

【申込書数】1,041名

【活動者数】814名(男137名・女677名)

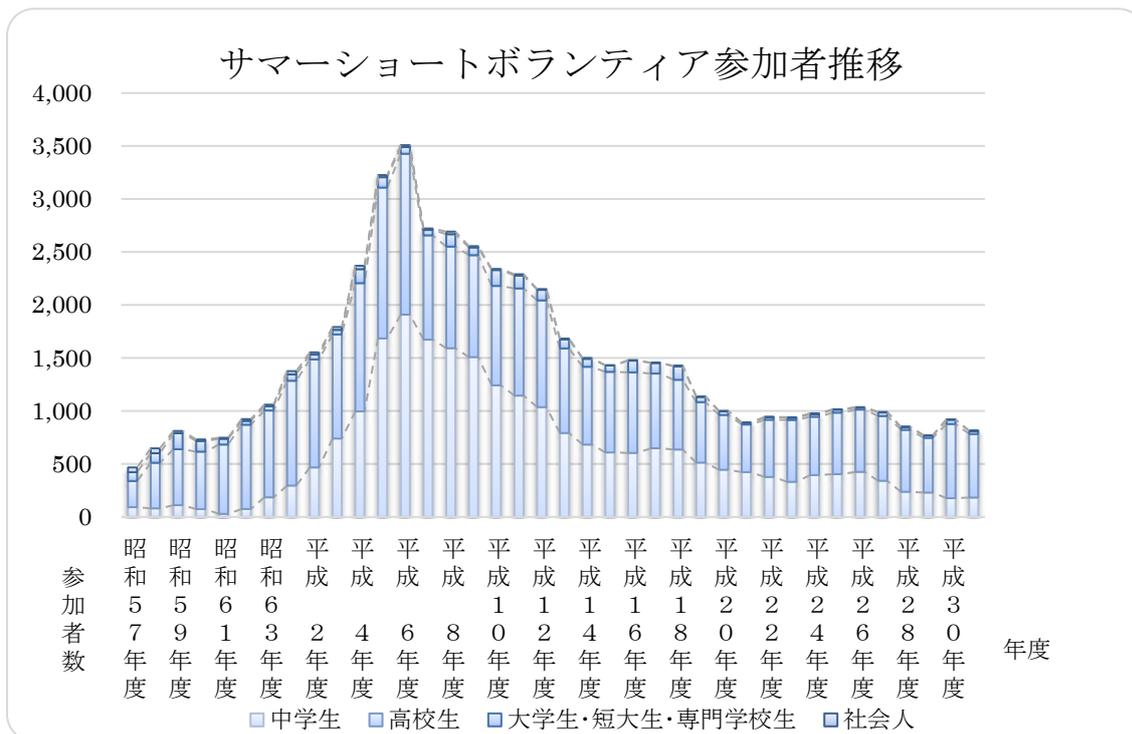
内訳 中学生183名 高校生600名

大学・専門学生28名 社会人3名

本事業を通して、多くの方にボランティア活動を体験してもらうことができた。「ボランティアをしてみたい。」と考える中学校・高等学校からの参加者が多く、ボランティアや福祉の職場に対する理解を深める機会となった。

今後も本事業の持つ魅力をPRし、より多くの参加者を得るとともに、福祉・ボランティアに対する理解を深めていくことができるよう努力していきたい。

また、本事業は福祉養成校(大学・専門学校)の協力を得ながら行っている。事前研修会には大学の職員にご参加いただき、福祉の仕事や学校についての説明をお話いただいた。将来の進路を考える学生にとって、貴重な話を聞く場となった。



2. 青少年異文化交流体験事業

第32回海外でのボランティア活動に学ぶ高校生スタディツアーINアジア

(静岡リバティライオンズクラブ共催事業)

広く海外に目をむけ、実際に現地を訪れ、文化・生活様式の異なるタイの農村やバンコクで、同世代の青年たちが交流し、その国や人々の抱える様々な問題を、自分達を含め地球人のすべての問題をして捉え、「ボランティア」「国際交流」「国際協力」のあり方を学ぶ機会とする。



(1)事業概要

企画・主催：静岡県ボランティア協会
静岡リバティライオンズクラブ
協力：シーカー・アジア財団
ドゥアン・プラティープ財団

募集期間	5月14日(火)～9月13日(金)
参加者選考会	9月23日(月・祝)
事前研修会	(第1回)10月6日(日) (第2回)11月10日(日) (第3回)12月8日(日)
本研修	12月20日(金)～29日(日)
事後研修会	令和2年1月12日(日)

参加者 高校生8名(男1・女7名)、一般同行者1名(女1名)

(2)成果と課題

現地で活動する NGO 団体を訪問することによって、人間の豊かさについて考えることができた。自分達ができる支援について、真剣に考える機会にもなった。ホームステイによって、参加者一人一人が自分の生活や将来について考えるきっかけを持つことができた。コミュニケーションを試行錯誤しながら実践できた。タイ人通訳者は高校生の大いなる刺激になった。

32 回目の今回、第 4 回スタディツアーに参加した高校生がその後、結婚されその娘さんが高校生として参加してくれていた。親子 2 代にわたり参加したのは初めてのケース。長い年月継続実施してきてくれたからである。静岡リバティライオンズクラブと共に創ってることができた成果だと感じている。

	月日	説明
1 日目	12 月 20 日 (金)	中部国際空港発 バンコクへ (機内泊)
2 日目	12 月 21 日 (土)	バンコク中央駅・フアランポーン駅から列車でスリン駅へ 移動 (リバティフレンドシップハウス泊)
3 日目	12 月 22 日 (日)	スリンの朝市、スリン博物館見学 サワイ村のオリエンテーション ホスト・ファミリーと過ごす (サワイ村・ホームステイ泊)
4 日目	12 月 23 日 (月)	サワイウィタヤカーン学校に登校 サワイ村園児の園内活動参加 パンヤー和尚、佐々木智司さんの法要 サワイ村での生活の振り返り、文化交流会・夕食会 (サワイ村・ホームステイ泊)
5 日目	12 月 24 日 (火)	サワイ村のホームステイファミリーとお別れ タクラーン村へ移動 エレファントスタディセンター視察 ホームステイ先の学生と顔合わせ ホスト・ファミリーと過ごす (タクラーン村・ホームステイ泊)
6 日目	12 月 25 日 (水)	ホームステイ先の学生とチャンブンウィタヤカーン学校に登校 学校行事のクリスマスパーティに参加 ホスト・ファミリーと過ごす 文化交流会・夕食会 (タクラーン村・ホームステイ泊)
7 日目	12 月 26 日 (木)	チャンブンウィタヤカーン学校に登校 ブリーラム空港へ/タクラーン村ホスト・ファミリーとお別れ バンコク・ドンムアン空港へ (ホテル泊)
8 日目	12 月 27 日 (金)	クロントイ市場、見学 ドゥアン・プラティープ財団 シーカー・アジア財団 マレットファン、訪問 (ホテル泊)
9 日目	12 月 28 日 (土)	バンコク市内自主研修 スワンナプーム空港へ移動 (機内泊)
10 日目	12 月 29 日 (日)	中部国際空港着 / 解散

3. 高校生・大学生と共に創る「地域共生フォーラム」

((福)静岡県共同募金会 使いみちを選べる赤い羽根募金助成事業)

(1)事業目的

これからの時代を担う高校生・大学生が地域社会の様々な課題に触れ、学び、考え、彼らの手で社会をよりよくするための力を身につけていく、「学びの機会」をつくることを目的に開催する。

(2)企画会の開催

開催数と時期：合計5回。本年6月28日から10月29日の各約1時間40分。
開催場所：静岡県総合社会福祉会館2階 ボランティアビューロー
参加人数：延べ25名（スタッフを除く）。内訳は高校生20名、社会人5名。

(3)学習会の開催

開催日時：本年9月14日 16時～17時30分
開催場所：静岡県総合社会福祉会館2階 ボランティアビューロー
講師：高畑幸氏（静岡県立大学国際関係学部教授）
講演タイトル「しずおかで暮らす在留外国人のいま」
参加人数：13名（スタッフを除く）。内訳は高校生11名、社会人2名。

(4)多文化共生をテーマとしたフォーラムの開催

開催日時と場所：令和元年11月3日 13時から16時15分
静岡県総合社会福祉会館7階703会議室
講師：谷澤勉氏（多文化共生を考える焼津市民の会「いちご」代表）
講演タイトル「外国にルーツを持つ子どもたちの学習支援」
パフォーマンスゲスト：フィリピン NAKAMA、
龍韻太鼓（静岡大学の学生和太鼓サークル）、ナマステ・ネパールしずおか
出展団体：静岡県立駿河総合高校「M-SIPP」、フィリピン NAKAMA
参加人数：87名（スタッフを除く） 共催団体：静岡市番町市民活動センター
後援団体：静岡市教育委員会、静岡県教育委員会

(5)事業の成果

- ① 次代を担う学生が社会教育イベントに企画段階から参画し、かつ当日の運営に携わる経験ができたこと。その経験は他校の学生、及び社会人との協働による活動であったこと。
- ② 学習会を実施し、参加者は静岡県内の在留外国人が抱える諸課題に関する理解を深め、在留外国人に対する見方が変わったのみならず、今後それら課題の解決に向けて地域で行動する態度の育成につながったこと。
- ③ フォーラムの参加者は、海外の異なる食べ物や踊りに直接ふれる体験をした。と同時に、在留外国人を支援する市民団体の取組みの実際を知り、共生について自らできることを様々な社会的立場の人と考え、伝え合う体験ができたこと。

Ⅱ. ケアする人のケアの充実

「ケアする人のケア」を学ぶ会 2019

(静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業)

ケアを必要とするさまざまな困難を抱えた人たちと、その人たちを支える側にいる“ケアする人”へのケアを社会全体のテーマとして考え、支え合える社会をつくっていくためのアイデアや実践を学び、「みんなで支え合う地域や社会」づくりを考える場となることを目的に開催した。(公財)静岡県労働者福祉基金協会共催事業。

【第1回】

実施日：9月7日(土) 14:00~16:00

会場：サールナートホール2階会議室

講師：藤原東演氏(こころの絆をはぐくむ会代表)

内容：講演「こころの絆をはぐくむ会と共に歩んで
『傾聴に学ぶ』」

参加者：29名



【第2回】(公財)静岡県労働者福祉基金協会共催

実施日：10月19日(土) 14:00~16:00

会場：静岡県勤労者総合会館3階 ALWF ロッキーマスター大会議室

講師：内藤いづみ氏(ふじ内科クリニック院長)

内容：講演「この時代をどう生き抜くのか、どう支え合
っていくのか? ケアがその柱であろう。」

参加者：50人



【第3回】(公財)静岡県労働者福祉基金協会共催

実施日：12月7日(土) 14:00~16:00

会場：静岡県勤労者総合会館3階 ALWF ロッキーマスター大会議室

内容：映画上映…田辺鶴瑛の「介護講談」
介護カフェ「介護体験から考えたこと」
お話…小櫻義明氏(静岡大学名誉教授)

参加者：36人



本事業の参加者は、医療現場や家庭、地域などでケアする側にいるだけでなく、ケアを受ける当事者あるいは当事者側の方々も少なくない。講師のお話や映画を通じ、ひとりひとりがそれぞれの立場で日頃抱えているさまざまな悩みや問題に向き合い、その解決や軽減につながるヒントを知る、あるいは考える機会になった。学びの場であると同時に、講師の言葉や映画の中で交わされた言葉に参加者自身が励まされ、癒され、元気になれるケアの場でもあった。

Ⅲ. 災害時のボランティア活動体制の整備

1. ふじのくに国際災害ボランティア支援ネットワーク事業

「ふじのくに国際災害ボランティア支援ネットワーク事業」は23年度より静岡県のご委託事業として3年間実施され、26年度以降は、本協会の自主財源を充てる形で継続している。ネパール地震への対応では、平成28年度にネパール国パタン市に地震防災コミュニティセンターを建設し、平成29年4月25日に同センター落成式への参加、地震から3年が経過した2018年4月、現地視察を継続した。この視察をきっかけにパタン市から建物の耐震技術を学んでもらおうという新たなプロジェクトが動き2019年度はその人選が行われた。

(1) 海外での大規模災害発生に伴う支援活動の継続

ネパール地震被災地へのかかわり

パタン市より建物の耐震技術を学んでもらうプロジェクトが動き、人選が行われた。

○「国際災害ボランティア支援ネットワーク」として募金口座を開設している。

【郵便振替口座開設】 口座番号 00820-0-215222

口座名義 国際災害ボランティア支援活動基金

(2) 静岡県総合防災訓練に合わせ、9月1日に富士山静岡空港における情報伝達訓練を実施した。

(3) 取り組みの課題

このネットワーク事業の委員委嘱をはじめ委員会の開催などは行えていない。

2. 南海トラフ巨大地震等に備えた災害ボランティアネットワーク事業

東海地震を含む南海トラフを震源とする巨大地震等の大規模災害に備え、“支援から取り残される地域をつくらぬ”ためのボランティア活動体制と広域連携のしくみを具体化させることを目的に下記の事業を実施した。

2-1. 南海トラフ巨大地震等に備えた災害ボランティアネットワーク委員会

((公財)静岡県労働者福祉基金協会助成事業)

大規模災害時のボランティア活動に関する受援体制づくりと広域連携のあり方について検討し、平時の取り組みを具体化させていくことを目的に標記委員会を開催した。

委員数：21名（新任8名 ※うち新規団体3名）

委員長：岩田孝仁氏（静岡大学防災総合センター教授）

本年度の目標：①県災害ボランティア本部・情報センターの動きの具体化

②社協、行政、NPO/ボランティアの三者連携促進

内 容

<第1回>日 時：8月27日（月）14:00～17:00

会 場：静岡県総合社会福祉会館2階ボランティアビューロー

出席者：22名（事務局等を含む）

内 容：◇委員会の設置趣旨と本年度の目標説明



- ◇台風 15 号による伊豆の被害に対する各団体の対応
- ◇団体紹介：平常時の活動・業務と災害時の取組みについて

<第 2 回>日 時：10 月 28 日（月）14:00～17:00

会 場：静岡県総合社会福祉会館 2 階ボランティアビューロー

出席者：22 名（事務局等を含む）

内 容：◇台風 15 号の伊豆情報共有会議報告
 ◇台風 19 号災害への対応、他

<第 3 回>日 時：12 月 9 日（月）10:00～16:00

会 場：静岡県総合社会福祉会館 7 階 703 会議室

出席者：23 名（事務局等を含む）

内 容：「行政と NPO・ボランティア等との三者連携・協働研修会」への参加
 (株)ダイナックス都市環境研究所が内閣府の委託を受けて開催し、静岡県、静 V 協、県社協が共催した。講師、関係者を含め 95 名が参加した

<第 4 回>日 時：2020 年 2 月 21 日（金）10:15～10:45

会 場：常葉大学静岡草薙キャンパス

出席者：16 名（事務局等を含む）

内 容：◇研修会実施報告
 ◇図上訓練概要説明後、図上訓練に参加

2-2. 第 15 回静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練 （日本財団助成事業）

南海トラフ地震等により静岡県内の複数市町が被災すると、公助のみならず、様々な立場の民間組織等による支援活動が想定される。近年全国で多発している豪雨災害では静岡県内でも被害が発生し、台風 15 号、19 号でもさまざまな対応や支援が行われたが、十分に行き届いていないところがあると指摘された。そこで、被災者・被災地支援のために、日頃からの「つながり」を意識した支援を考えるワークショップ型訓練を 2 日間にわたり実施した。初日の開始前には、初参加の人を主な対象に、15 回目を迎えた静岡式図上訓練がどのようなものなのかを知ってもらい訓練に入りやすくするため、自由参加型のプレセミナーを行った。

- (1) テーマ「ふだんの役割から一歩はみ出そう！～誰もが担い手になれる『しずおか』を目指して～」
- (2) 開催日・会場：2020 年 2 月 21 日(金)・2 月 22 日(土)
 常葉大学静岡草薙キャンパス
- (3) 参加者 294 人（申込み者 337 名）
 新型コロナウイルスの影響で直前に参加を取りやめた人も多かった。

	参加団体数・人数	内 訳 (人)	
県 内	26 市町・静岡県 98 団体・機関：211 人	プレイヤー	107
		ビジター	45
		WG、協力者、ゲスト、事務局等	59
県 外	17 都道府県 54 団体・機関：83 人	プレイヤー	55
		ビジター	17
		WG、協力者、ゲスト、事務局等	11

(4) 実施内容

1 日目

◇訓練の目的や県内の体制等の共有

- ・ 訓練の目的共有
- ・ 静岡県第4次地震被害想定について
- ・ 県内の連携支援体制



◇ワークプログラム1「地域の困りごとと多様な担い手の理解」

「災害時に起こる地域の困りごとに対する自分の役割を認識するとともに、多様な担い手がいることを理解する」「現状の役割だけでは支援が届かない困りごとがあることを理解する」ことを目標にワークを行った。ワークのグループは県外参加者も交えた5名程とし、各グループにファシリテーターを配置した。

【ワーク①】 自分の役割の認識と他者の役割の理解

事前課題を活用し、グループメンバーの特性を知る

【ワーク②】 支援が届かない困りごと

被災地で起こりうる多様な困りごとに対応できるか考える

【ワーク③】 全体共有・プログラム1のまとめ

自グループだけでなく、他のグループの対応状況も知る

◇交流会は、新型コロナウイルス対応に伴う常葉大学側の要望で急遽中止とした。そのためワーク終了後にプレイヤー同士、プレイヤーとビジター間などで自由に交流できる時間を設けた。

2 日目

◇ワークプログラム2「ふだんの役割から一步はみ出そう！」

「自分たちの普段の役割や、事前に決めている災害時の取り組みから一步はみ出すことで、ひとつでも多くの困りごとの解決につながることや対応できる可能性があることを知る」ことを目標とした。“はみ出し”のイメージを持つために3つの事例を聞いた後、1日目と同じグループ、ファシリテーターでワークに取り組んだ。

【事例報告】

「一步はみ出すことの可能性を考える」

報告者：大橋俊文氏（倉敷市企画財政部企画経営室主幹）

「平成30年7月豪雨災害における倉敷市社協の取り組みについて」

報告者：日野林典人氏（(福)倉敷市社会福祉協議会真備事務所兼まび復興支援ボランティアセンター主幹）

「台風19号行政書士会の取組み」

報告者：藤田由香子氏（静岡県行政書士会災害対策支援委員会統括部長）

山崎祐太郎氏（静岡県行政書士会伊豆支部会員）

【ワーク①】 困りごとに対応するために一步はみ出すことの可能性を考える

- ・ 事例報告の感想共有
- ・ ワークのやり方デモンストレーション
- ・ 個人ワーク

【ワーク②】 支援の可能性を広げるはみだし共有

- ・ 個人ワークの共有：発表しアドバイスや新しい知恵をもらう
- ・ まとめ

◇振り返りとまとめ

- ・全体ふりかえり
- ・ビジタープログラムのふりかえり
- ・バズセッション
- ・2日間の総括コメント
小村隆史氏（常葉大学准教授）



ビジタープログラム

【1日目】

◇セミナー①「静岡式図上訓練の裏側、お見せします！」

静岡の図上訓練は誰がどのように作り込み、他地域にどう影響しているのか事例報告をもとに紹介した。

- ・事例報告1「東京の取組み事例と静岡のココがスゴイ！ところ」
報告者：福田信章氏（東京災害ボランティアネットワーク事務局長）
- ・事例報告2「兵庫県の大規模災害を想定した災害ボランティア連携訓練」
報告者：頼政良太氏（被災地NGO協働センター代表）

【2日目】

◇セミナー②「参加の理由を共有しよう」

「企業人に聴く～企業による被災地支援～」を予定していたが、新型コロナウイルスの影響で事例提供者が参加できず内容を変更した。

◇セミナー③「ワークの事例提供者に聴く ～実は〇〇でした～」

ワークプログラム事例提供者への質問形式で、さらに踏み込んだ話や本音、貴重な意見などを伺った。

(5) 成果と課題

- ・当日は新型コロナウイルスへの対応でプログラム変更を余儀なくされたが、ワーキンググループの柔軟で迅速な対応により影響を最小限にとどめることができ、また、参加者の理解と協力で円滑に実施することができた。
- ・(参加者アンケートで) プレイヤー、ビジターとも、ほぼ全てのプログラムに高い満足度が示された。また、訓練目標のひとつであった「災害時に起こる地域の困りごとに対する“多様な担い手”の理解」は概ね達成できたと思われる。
- ・今回初めて平日を含む日程での開催となった。NPO・ボランティア団体などの参加に大きな影響がなかった一方、これまで土・日開催では参加がしにくいとの声があった行政や社協の参加者増加も見られなかった。
- ・徐々に多様な分野からの参加が広がっているものの、特に県内プレイヤーはまだ多くの市町が災害ボランティアに偏っており、更なる多様な組織・団体からの参加が望まれる。

【図上訓練企画ワーキンググループ会議の開催】

訓練実施にあたり企画ワーキンググループ(以下、WG)を設置。県内を中心に社協、NPO・NGO、災害ボランティア団体、企業など様々な分野から集まったメンバーがプログラムづくりと当日の運営を担った。なお、毎回の会議内容や進め方、役割分担などを決めるため、WG内に設けた企画チームが事前に打ち合わせを行い準備した。

○メンバー：30名（県内24名、県外6名）、ワザダー・協力者8名、事務局1名

【所属】NPO・NGO、社協、ボランティア・市民活動団体、士業、大学生、福祉施設、行政、企業など

〔活動分野〕 災害、国際協力、福祉、環境、子育て支援、ファシリテーション、男女共同参画、中間支援など

- 開催日：準備会…5月7日(火)、第1回…7月31日(水)、第2回…9月2日(月)
第3回…10月2日(水)、第4回…10月30日(水)、第5回…12月11日(水)
第6回…1月8日(水)、第7回…2月5日(水)、ふりかえり…3月9日(月)
- 会場：静岡県総合社会福祉会館2階ボランティアビューロー、他



ワーキンググループは、特に県内メンバーにとって学びと訓練の場であり、多様な支援者とつながる機会になっている。本年度も各地で災害が多発し県外メンバーが被災地支援で参加できないことも多かったが、県内メンバーが中心となって進めることができた。今回、前回のWGから半数近いメンバーが入れ替わったが、県内外のWG経験者のつながりがさらに広がり、災害時にも生きることを期待したい。

IV. 中間支援機関としての活動の充実・強化

1. 静岡県総合社会福祉会館ボランティアビューロー管理者としての活動

ボランティアビューローは、ボランティア・市民活動団体の活動支援を行う機能を持ち、60名の定員で研修や会議、ボランティアの交流会などに利用してもらえる場を提供している。また、南海トラフ巨大地震などの大規模災害時には「静岡県災害ボランティア本部・情報センター」としての活動を行う場所となる。

■令和元年度ボランティアビューロー利用状況

利用件数：252件

利用人数：3,287人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	15	18	22	28	16	25	33	23	15	13	18	26	252
人数	166	266	241	320	329	342	458	231	212	178	252	292	3,287

2. ボランティア相談支援事業等

(1) ボランティア相談支援

日常的に寄せられる相談内容は多岐にわたる。個人の「ボランティアしたい」から福祉施設等の「ボランティアがほしい」、ボランティアグループの活動上の相談などもあるが、最近ではそれらよりも個人の生活に関する相談やどこにも行き場がなく本協会に問い合わせをしてきたケースも見られる。福祉制度の網にかからない社会的弱者への支援の必要性がみえてくる。ボランティア相談として相談を寄せられる方の中には別の思いを持たれている方もある。表面の言葉だけを受け止めるのではなく、言葉の奥に隠された思いを汲み取り、その思いに対応することがとても大事と感じている。そのためにはより専門的な知識を身につ

けることや、専門機関へつなげることも必要となっている。以下、寄せられた相談の中でケース記録化したものを報告する。

＜相談受付件数＞ 35 件（記録化したもの）

（相談内容）	ボランティアをしたい	13
	ボランティアがほしい	3
	問合せ（～について教えて欲しい）	4
	講師を紹介してほしい	3
	マスコミからの問い合わせ	1
	事業・講座実施相談	3
	その他（広報依頼 3 件など）	8

＜相談者区分内訳＞

相談者区分	件数
個人	13
施設・福祉団体	5
行政	0
社協	2
企業・労働組合	6
VG	1
学校・生徒会	1
その他	7
総計	35

＜市町別相談者＞

東部		中部		西部	
伊豆の国市	1	静岡市(区不明)	2	袋井市	1
富士市	1	静岡市葵区	11	掛川市	1
小計	2	静岡市駿河区	10	小計	2
		静岡市清水区	2		
		島田市	1		
		藤枝市	1		
		小計	27		
		不明	1	県外	3
		総計	35 件		

（２）教育現場におけるボランティア学習の啓発・推進

教育現場からボランティア活動や福祉教育を学ぶ上で何かよい資料はないかと問い合わせを受けるときには、「ボランティアガイドンス」を提供している。内容も多岐にわたりわかりやすい内容であることから好評を得ている。また、サマーショートボランティア活動計画に関連した学校訪問を積極的に行い、学校とのつながりづくりに努めた。

（３）大型リフトバス「ふじのくに愛輪号」の運行管理

主に移動障害を持つ方々の当事者団体や施設、ボランティアグループなどが、研修や旅行等の際の移動手段として利用できるリフトバスの運行管理を行った。

1. 運行実績

- (1) 運行件数：18 件
- (2) 運行日数：19 日
- (3) 利用団体数：12 団体・施設
- (4) 利用者数：のべ 489 人
- (5) 運転ボランティア数：のべ 38 人



2. 実施内容

(1) 通常運行業務

- ① 利用申込み受付から貸出しまでの手続き、保険加入手続き、他（随時）

② 運転ボランティアの依頼（毎月1日）と調整・決定・連絡

(2) 運転ボランティア研修会

事務局スタッフも参加し、運転ボランティアの方々とは親睦を図るとともにリフトバス事業への理解を深めた。

開催日：8月4日（日）

行き先：日本平夢テラス、静岡市番町市民活動センター

内 容：路上走行、洗車会

参加者：12名

(3) 利用団体へのアンケート調査

近年、利用件数が減り続けているリフトバスの運行について、移動障害を持つ人たちを取り巻く状況を知り、本事業への意見や提案などを聞くために利用団体へのアンケート調査を行った。

<対象>平成24年度（2012年度）にバスの利用登録を更新した団体及び同年度以降の新規登録団体 計46団体

<回答数>30件（回収率65%）

本年度も運転ボランティアの皆さんや駐車場所を貸して下さる浜名梱包輸送株式会社様（浜松市）の協力をいただき、大きな事故もなく運行することができた。運行件数は昨年度に続き20件を下回る結果となったが、利用団体アンケートではバスの老朽化や借用手続きなどに不便を感じているものの、今後バスを利用しないと回答した団体も含め、リフトバスは必要との回答が30件中29件にのぼった。

(4) ボランティア活動参加促進事業（共同募金配分金事業）

本事業は、働く世代の方々や学生をはじめ、一般市民を対象に、ボランティア活動への興味・関心を高め、参加意欲を喚起すること、身近なボランティアに参加するきっかけをつくり、地域の一員として社会の課題解決に取り組み、ボランティア・市民活動への参加を促進することを目的に実施した。

「いちからはじめるボランティア」

★手づくりおもちゃで笑顔を届けよう

・日時 11月16日（土）13：30～16：00

・場所：ボランティアビューロー

「福祉バザール」内におけるお楽しみコーナーの準備・装飾作成など

参加者：6名

・日時 11月30日（土）8：30～16：00

・場所：静岡市青葉緑地B1, 2ブロック

お楽しみコーナーの設営から参加し、運営に携わるボランティアを実際に体験

参加者：20名

★THE・足湯勉強会 ～知ってる？ “足湯”のこと～

・日時 2020年2月1日（土）13：00～16：00

・場所：ボランティアビューロー

しずおか茶の国会議の協力のもと、足湯について学び、する側、される側を体験。

参加者：30名

(成果と課題)

参加者がさまざまなボランティアについて知り、自分自身の力がボランティアに役立てられる実感を得られていた。参加者にはボランティアをすでにしている人、していない人がいた。違う立場の人達が意見を交わしたことで、ボランティアに対する関心を深めたり、活動を顧みたりする機会となった。



(5) ボランティアガイダンスの作成 (共同募金配分金事業)

ボランティア活動に関心を持つ人たちや、実際に参加する人たちに心構えや活動を紹介、活動していく上での手引書としてもらうことを目的に作成・配布する。

①内容

- I はじめてのボランティアのために
- II ボランティアのこころえ
- III こんな施設でこんな活動を
- IV 障がいを持つ方と接するときに
- V 福祉の仕事について
- VI 参考資料
 - ・ホントに知ってる？収集活動 ～収集先のご案内～
 - ・ボランティアの用語
 - ・県内の社会福祉協議会ボランティアセンター一覧

② 作成部数 5,000部

③ 配布先 ボランティア活動推進機関、学校、福祉施設、個人などに配布



3. 市民活動サポートセンター事業

(1) 市民活動に関する助成金情報をはじめとした情報収集と提供

助成金情報、研修情報をはじめとする市民活動支援のための情報、企業の社会貢献活動、行政における市民活動支援に関する情報などを収集し、提供した。

(2) ボランティアコーディネーター研修会 (静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業)

ボランティア・市民活動の裾野の活動を図るための人材育成を行う。市民活動センターや社協ボランティアセンター職員、福祉施設などのボランティア受入先などを主な呼びかけ先とする。

- ① 開催日 令和1年9月11日(水) 13:30~16:30
- ② 会場 静岡県総合社会福祉会館2階 ボランティアビューロー
- ③ 講師 後藤麻理子氏(認定NPO法人日本ボランティアコーディネーター協会)
- ④ 内容 ボランティア・市民活動センターに勤務する職員をはじめ、福祉施設等に勤める職員を対象にボランティアコーディネーターの基礎を学ぶ内容。
参加人数は、17名。

<成果と課題>

主にサマーショートボランティア受入施設職員を中心に呼びかけた。福祉施設、社会福祉協議会の職員に参加していただくことができた。ボランティアの集め方やどんなことをお願いするかといった具体的な手法、また、ボランティアやボランティアコーディネーターについて、学ぶ機会を設けることができた。

ボランティアの受入施設と市町社協がお互いにボランティアを受入れる上での困っていることを話し合ったり、連携の仕方について考えたりと、社協や施設単独でのボランティア受入だけではなく、広域的にボランティアの受入について考えられるよい機会となった。

(3) ファシリテーション講座 2019 (静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業)

市民活動やボランティア活動に関わっている方々を主な対象に、話し合いの場に参加する人たち全員の主体的な発言を促し、認識の一致を確認していくことで相互理解を深め合意形成を図る“ファシリテーション”の基礎と実践を学び、それを身につけ活かすことで、活動をより活性化させていくことを目的に実施した。

1. 事業概要

日時：6月15日(土)・16日(日) 9:30~16:30 *2日間の連続講座

場所：静岡市番町市民活動センター大会議室

講師：鈴木まり子氏(特定非営利活動法人日本ファシリテーション協会 フェロー)

参加者：29名…社協、福祉法人・施設、NPO(環境、地域づくり、若者支援、子育てなど)、
当事者団体・支援団体、地域組織、事業体、行政、大学生、ボランティアなど

共催：静岡市番町市民活動センター

2. 実施内容

参加者一人ひとりが「ファシリテーションの基本となる心づかいや手法を理解し、『自分の現場で活用しよう』という気になっている」ことを目標に、講義とワークショップを通して基礎から実践まで幅広く学んだ。

[1日目] ファシリテーションの効果

効果的な話し合いの進め方 8つのコツ①

[2日目] 効果的な話し合いの進め方 8つのコツ②

実践! ファシリテーション

話し合いをしてみよう

自分の活動にいかすには?

ふりかえり



充実した2日間のプログラムは「大変満足92%、まあ満足8%」と満足度も大変高く、多くの参加者が今回の学びを自分の現場で活かそうという気になったことも伺えた。また、福

社関係や市民活動団体をはじめ大学生、行政職員など、活動分野も年齢も異なる人たちの出会いは、お互いが刺激を受け合いヒントを得る機会にもなった。



＜参加者の声＞

- ・具体的に丁寧に教えて頂いたので、すごくわかりやすかったです。
- ・参加型で実感でき、職場で活用していきたいと思えた。
- ・講座を聞くだけでなく、実際にやってみたり、知らない人同士で話をしてみたりと、生きた講座で参加してみても良かったです。
- ・2日間、9:30～16:30なんて長いな、と試してみましたが、終わってみたらあっというまに過ぎてしまう程、楽しかった。
- ・場数をふまないと身につかないと、本当に思いました。

（４）第37回ボランティア推進団体会議(通称:民ボラ)千葉大会

ボランティア活動を推進する全国各地の民間ボランティア推進団体が、それぞれの組織の役職員やスタッフ同士の研修、参加者同士の交流・情報交換を図っていくことを目的として開催する。本協会からも実行委員会にスタッフを出し、開催に向け企画・運営協力を行う。

「ボランティア推進団体会議(通称:民ボラ)」として37回目の集会は、千葉市で開催された。

日時 2019年7月6日(土)～7月7日(日)

会場 生活クラブ生協千葉本部(千葉県千葉市美浜区5-21-12)

主管 認定NPO法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ

●世話人団体(11)とちぎボランティアネットワーク、富士福祉事業団、大阪ボランティア協会、静岡県ボランティア協会、東京市民活動・ボランティアセンター、山梨県ボランティア協会、世田谷ボランティア協会、いたばし総合ボランティアセンター、ちばNPO事業サポートクラブ、茨城NPOセンター・コモンズ、樹恩ネットワーク

●全体会：「SDGsが取り残すもの」

SDGsの負の側面が社会的にも認知されてきたところだが、民ボラらしくて良かった。

●分科会

分科会1：「ユニバーサル就労について」

分科会2：「休眠預金活用時代の草の根市民運動」

分科会3：「入管法が変わる中で多文化共生をどのように進めるか」

分科会4：「なぜ民間？ どうして民間？ そもそも民間って？」

●集会を終えての世話人団体からの意見(抜粋)

- ・労働力不足で就職活動は学生の売り手市場と言われるが、志望企業に就職する学生は非常に少なく、思いどおりに行かずにひきこもりになりがちだ。
- ・SDGsを手段として、企業と市民活動団体がより連携できるはず。
中小企業社長は、地域に子どもがいなくなり、後継者がいなくなると危機感を感じており、子どもの貧困などを課題として感じている。残り10年程度で、大都市圏以外はダメになる。
⇒ オーナー企業の方が市民活動団体と一緒に動いてくれる。
⇒ 法人会加盟企業では、まだSDGsはピンと来ていない。
- ・経済中心に物事を捉えるからおかしくなる。地域のニーズをもとに動くが良い。
- ・SDGsは継続して議論していきたい。
- ・SDGsや休眠預金の動向を定点観測することは重要になる。

(5) 県民の日イベント「フェスタシズウエル 2019」参加

静岡県総合社会福祉会館（愛称「シズウエル」）をより多くの人に知ってもらい利用してもらうために、会館入居団体に実行委員会を組織し「フェスタシズウエル 2019」を開催した。

本協会も実行委員会に参加し、幹事団体として開催準備・当日参加をした。協会ブースには 168 名が来場し、さまざまな企画で楽しんでいただくことができた。

日 時：8月17日（土）10：00～14：00

会 場：静岡県総合社会福祉会館シズウエル

内 容：（本協会の取り組み）

- ・ワークショップコーナー
ぷちボランティア体験（使用済み切手整理）
缶バッジ作り体験
ザリガニ釣り体験
- ・販売コーナー
岩手物産販売/タオル・ブルーベリージャム販売
- ・学習コーナー
ボランティア協会を知ろう（クイズ形式で事業紹介）
認定NPO法人「カレズの会」活動紹介（クイズ形式）とアフガニスタンの民族衣装展示・お茶試飲会



(6) アフガニスタン復興支援～認定特定非営利活動法人カレズの会への活動支援協力

認定特定非営利活動法人カレズの会は、任意団体として発足した 2002 年 4 月よりアフガニスタン・イスラム共和国南部のカンダハール市で医療と教育の取組を続けている。

アフガニスタン・イスラム共和国では 2019 年 9 月 28 日に大統領選挙が実施された。選挙結果の発表が遅れ、2020 年 2 月ようやく現職のアシュラフ・ガニ大統領が再選を果たした。2 位の元行政長官アブドラ・アブドラ氏は敗北を認めず、自身も大統領就任を宣言するなど政治的混乱が続いている。

その一方、反政府武装勢力タリバンと和平交渉を続けていたアメリカ政府は、2020 年 2 月

29日に和平協定を締結した。13,000人の兵力を有するアメリカと同盟国の駐留軍は135日以内に8,600人に削減し、その後も「アフガニスタンをテロの温床にしない」とする条件をタリバンが満たせば14ヶ月以内に完全撤退する。カンダハールの治安情勢は、2019年7月にタリバンによるカンダハール州警察本部への襲撃事件が発生し、爆風により本会診療所のドアやガラスが全て破損するなど、物的被害を受けた。この様な厳しい治安情勢の下、カレーズの会は無償の診療サービスを死守すべく、現地職員が一丸となって活動に取り組んでいる。

世界中にパンデミックを起こしている新型コロナウイルス感染症に関しては、3月半ばにアフガニスタン国内で最初の感染者が確認された。その後、全国で感染者数が増加しており、4月9日現在カンダハール市でも23人が感染、1人が死亡している。今後、新型コロナウイルス感染症が疑われる大勢の患者が診療所を受診する可能性が高い為、院内の感染症対策を強化し、医師や看護師を初めとする全職員33名の安全を確保すべく対応する。同時に、今までも地道に取り組んでいた公衆衛生教育や栄養教育を強化し、一般市民に対する感染予防の啓発活動も継続する。



パンデミック前の公衆衛生教育の様子(2019年6月)

2019年度の正会員数は個人234(285口)、団体15(19口)。賛助や学生を含む総会員口数は338口で対前年度比8口減少した。一方、マンスリーサポーター寄付や2度の特別募金(夏季・年末年始)、出産介助事業指定寄附金等の寄付及び募金件数は1,222件であった。

(7) ふじのくに静岡・協力隊を育てる会の活動支援

青年海外協力隊は1965年に発足し、静岡県からの参加者は2018年2月末現在累計1,481人、派遣中の隊員は40ヶ国で70人にのぼっている。青年海外協力隊事務局や帰国隊員の組織等と協力しながら、本県の広範な人々にも参画してもらい、青年たちが開発途上国で国際協力活動を通して得た貴重な体験を、地域社会に還元し貢献できるよう、幅広く対応するため「ふじのくに静岡・協力隊を育てる会」が平成27年1月24日に設立された。同会の事務局を本協会に置き、「育てる会」の活動を側面的に支援している。

4. 研修・養成事業

(1) 第42回静岡県ボランティア研究集会

テーマ：やってみっかしん「ボラ輪ピック」in 島田宿 -大井川に架けよう 笑顔のかけ橋-

((公財)静岡県労働者福祉基金協会助成事業・(福)静岡県社会福祉協議会ふれあい基金助成事業)

静岡県内でボランティア・市民活動に関心を持つ人たちや、実際のボランティア活動に参

加している人たちが一堂に会し、情報交換や話し合いを通してお互いの活動に関する学習を深めるとともに、ボランティア同士のネットワークづくりを推進することを目的に開催した。

①事業概要

主 催：特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会
 公益財団法人静岡県労働者福祉基金協会
 共 催：社会福祉法人静岡県社会福祉協議会
 社会福祉法人島田市社会福祉協議会
 実施主体：第42回静岡県ボランティア研究集会実行委員会
 後 援：静岡県・静岡県教育委員会・島田市・島田市教育委員会
 日 時：令和2年2月9日（日）10：00～16：15
 会 場：島田市民総合プラザおおるり
 内 容：オープニング 金谷大井川川越し太鼓チャレンジチームによる太鼓パフォーマンスと島田市紹介映像上映
 開会式 静岡県ボランティア協会理事長 小野田全宏
 静岡県労働者福祉基金協会専務理事 鈴木利和
 （紹介）島田市社会福祉協議会会長 山城厚生
 実行委員長 原田君江
 来賓 島田市長 染谷絹代様
 静岡県健康福祉部福祉長寿局地域福祉課課長 桑原裕明様
 映像紹介 静岡県心のバリアフリー～障害者差別解消法がめざす共生社会の実現～ ナレーション：織田友理子氏
 基調講演 テーマ：心のバリアフリー ～持続可能な社会を目指して～
 講 師：織田友理子 氏 （一般社団法人 WheelLog 代表理事／NPO 法人 PADM（遠位型ミオパチー患者会）代表理事）
 分科会 以下の8分科会を実施
 全体会 分科会からのメッセージを披露
 閉会式 挨拶 副実行委員長 小池操
 次回開催地、県西部 浜松市社会福祉協議会へ引継ぎ
 静岡県社会福祉協議会事務局次長 永嶋孝朗
 参加者数： 427名（関係者含む延べ人数）



②分科会の詳細

分科会	分科会テーマ／助言者・事例提供者（敬称略）
第1分科会 （障がい）	踏み出す1歩が世界を変える ～映画「風は生きよという ～呼吸器から吹く風に乗る、つながり合う人と人との物語～」上映会&精神障害者ピアサポーター活動者のお話～ 支 援 者：菅原小夜子氏（NPO 法人こころ 理事長） 体験報告者：加藤康秀氏（NPO 法人こころ ピアスタッフ）
第2分科会 （ボランティア）	ボランティアの輪 お互いさまの輪を広げよう ～いいこといっぱい すてきな仲間を増やそう～ アドバイザー：渡邊英勝氏（静岡福祉大学福祉心理学科准教授）
第3分科会 （災害）	台風19号から学ぼう・・・～これからの備えについて～ 助言者：宮村 正光氏（大鐘測量設計株式会社技術顧問・管理建築士） 助言者：眞部 和徳氏（元島田市役所危機管理部長）

	<p>事例提供者： 関智久氏（小山町社会福祉協議会地域福祉プロデューサー） 高田宜秀氏（御殿場青年会議所 2019 年度理事長） 若林久美子氏（特別養護老人ホーム平成の杜施設長） 金刺 秀徳氏（特別養護老人ホーム平成の杜主任生活相談員）</p>
<p>第 4 分科会 （高齢者）</p>	<p>年をとっても、弱くなっても、いつまでも暮らしやすい地域に！ コーディネーター：新井恵子氏（静岡福祉大学健康福祉学科 教授） 事例提供者：秋山守男氏（島田市地域ふれあい事業連絡協議会会長） 曾根翼氏（島田市役所包括ケア推進課 職員） 大崎瑞穂氏（島田市役所包括ケア推進課 職員） 大谷充代氏（居場所「ちゃのみ」） 清水雅之氏（島田オレンジカフェ 代表）</p>
<p>第 5 分科会 （子ども）</p>	<p>子どもにかかわることでの「ボランティアの喜び」 ～地域で育てる人とのかかわり～ 事例提供者：大畑善栄氏（元島田子供見守り隊 隊長） 大村泰史氏（ボランティアふれ愛 代表） 小澤康恵氏（島田市レクリエーション協会 代表）</p>
<p>第 6 分科会 （まちづくり）</p>	<p>やっぱり！ まちなかが好き！！ ～まちなかの賑わいが人を元気にする～ アドバイザー：秋原恭大氏（藤枝市商店街連合会 前会長／キリンヤ店主） ゲスト：畑山大介氏（低糖質おやつとコーヒーLocco 店主）</p>
<p>第 7 分科会 （生活困窮）</p>	<p>はじめよう！子どもたちの未来応援 ～活動から見えてきた子どもの貧困について 講 師：米山けい子氏（認定NPO法人フードバンク山梨 理事長） 事例提供者：杉本優子氏（社会福祉法人島田市社会福祉協議会 職員）</p>
<p>第 8 分科会 （居場所）</p>	<p>老いも若きもみな集まろう～共生社会に私たちができる事～ 事例提供者：青山文代氏（カフェ 蔵 代表） 小池富士夫氏（はなしカフェ下藪田 代表）</p>

③成果と課題

島田市社会福祉協議会が地域で活動する方々に精力的に働きかけ実行委員会への参加を誘っていただいた。集った実行委員の方々の中で、原田君江さんに実行委員長を引き受けていただき、実行委員長を支える形で実行委員会が動いていった。研究集会そのものは、実行委員会の働きによって無事集会を開催できた。実行委員にとっても充実感を味わいよい成果を得ることができた。集会内容で事務局の見届けが不十分な箇所もあり分科会担当者に負担をかけてしまった。集会では、次回開催地である浜松市に引継ぎができ、実行委員会としては安堵している。新型コロナウイルス感染拡大防止のため手指アルコール消毒を呼び掛けた。3月の振り返りの会は、コロナ感染拡大が危惧されたことで書面のみで実施した。

(2) 合理的配慮理解促進事業

映画「道草」上映会と「共に生きてるコンサート&おはなし会」

(静岡県合理的配慮理解促進事業助成)

障がい当事者のお話や映画上映、コンサート等を通して、障がいを持つ方々へのよりよいかかわりは、どうあったらよいのかを知り、理解していただく機会として開催しました。

日時 令和2年2月24日(振替休日)9時00分～17時00分

会場 静岡県男女共同参画センターあざれあ 6階ホール

参加者 80人

内容 <映画会>①ドキュメンタリー映画『道草』
(知的障がいの方々の日常を描写した作品)上映

<講演会>

重度障害当事者のお話(NPO 法人おのころ島理事長 井出一史さん)

<映画会>②ドキュメンタリー映画『道草』

(知的障がいの方々の日常を描写した作品)上映

<共に生きてるコンサートとお話し会>

視覚障害をもちながらシンガーソングライターとして活動している
大石亜矢子さんのコンサート。同じく視覚障害をもちながら弁護士と
して仕事をされている大胡田誠さんのお話

成果 2回の映画「道草」の上映を通して、重度の知的障害を持つ人たちが地域で暮らしている現実の姿を見ることができたことで、当事者への理解が進んだ。

5. 広報誌発行事業

機関誌の発行

会員はじめ関係機関等に対し、協会の事業や活動をPRするとともに、活かしたボランティア情報を提供する。

① ボランティア情報静岡

年間4回(春・夏・秋・冬)の季刊発行。特集では、協会の事業や取り組みをより詳しく報告し、ボランティア活動・市民活動に役立つ助成金や講座情報などを掲載。各号1,200部発行する。

② ぼらんていあMail

会員に対し、事務局の1ヵ月の動きや予定を紹介する。職員のコラムや最新の取り組みなどを掲載することで、ボランティア協会をより身近に感じていただく。年間12回、毎月700部発行する。

6. 情報提供事業

ホームページの運用・管理

インターネットやメール、ブログなどを使って、関係団体からの情報ならびに本協会情報を広く提供した。

内容

・ホームページによる情報提供

本協会の事業紹介や、ボランティア募集情報や助成金情報、研集会情報など掲載し、関心ある方々への情報提供、およびボランティア・市民活動者への情報提供を行う。

7. 静岡市番町市民活動センター指定管理事業

静岡県ボランティア協会は、「市民自治によるまちづくり」を目指している静岡市から、静岡市番町市民活動センターの指定管理を受託しています。人々の市民活動に対する意識を高め、新たな市民活動団体・NPO 団体の萌芽や発達を促し、さらに充実していく過程を支えていくことが、公設民営の静岡市番町市民活動センター（市民からの愛称：番町センター）に求められている役割と考えています。

「好きな静岡をすてきな静岡へ」と「番町センターは市民活動の仲間づくりをします」を掲げ、幅広い年代、立場の市民活動団体の方々に親しまれ、利用しやすい番町センターと心強く思ってくれる市民の利用をサポートしています。

(1) センター利用状況

平成 31 年度 利用状況

※平成 31 年 4 月から令和 2 年 3 月までの月ごとの利用人数の平均は 3,729 人、平均利用件数は 968 件

※番町センター利用登録団体数は、令和 2 年 3 月末で 813 団体

参考：31 年 3 月：778 団体、30 年度末：740 団体

	H31. 4	R1. 5	R1. 6	R1. 7	R1. 8	R1. 9
開館日数	28	29	28	29	29	28
利用人数 (人)	3,611	3,794	3,859	3,474	3,408	3,976
前年同月比 (人)	-112	-9	-629	-99	-26	+441
利用件数 (件)	975	954	993	951	999	1,073
前年同月比 (件)	-30	-74	+14	+8	+1	+73
新規登録団体数	0	2	9	3	3	3

	R1. 10	R1. 11	R1. 12	R2. 1	R2. 2	R2. 3	合計
開館日数	28	28	26	27	27	29	336
利用人数 (人)	6,010	4,076	2,881	3,564	3,762	2,337	44,752
前年同月比 (人)	-144	-153	-462	+29	+113	-1,754	-2,805
利用件数 (件)	1,061	996	852	954	980	825	11,613
前年同月比 (件)	-162	-48	+51	+71	+79	-198	-215
新規登録団体数	3	6	0	1	3	2	35

(1) 市民活動に関する情報の収集及び提供に関すること

まず、市民に「市民活動」にかんする情報が平等に届かなければなりません。情報は「幅広くじっくり収集し、迅速に発信すること」を合言葉にしています。

1 階と 2 階に情報コーナーを設置しています。市民活動団体が持参もしくは郵送で運び込む広報チラシ等を貼る掲示板や情報誌などを置くコーナーは、日々新しいものが届くため、時折スペースが足りなくなるほどです。「助成金情報」は、常設の「助成金情報」ボードへ掲示します。これらの情報は配架、掲示する他、HP に掲載し、メールマガジンでも発信をしています。新聞等に掲載された NPO 市民活動の記事は切り抜き、それを貼る専門のボードに掲載しています。これらの情報収集と、素早い情報提供は、情報を探している人にとって、わかりやすいものとなっているか随時チェックをかけています。また、電話やメール、窓口での問合せに対し

でもお答えしています。

情報誌「ばんたび」と広報誌「かわら版」を年に4回発行しています。登録団体に送付するほか、館内や市内の図書館、生涯学習交流館などに配架をお願いし、多くの市民に「市民活動」のタイムリーな情報が届くよう、心掛けています。

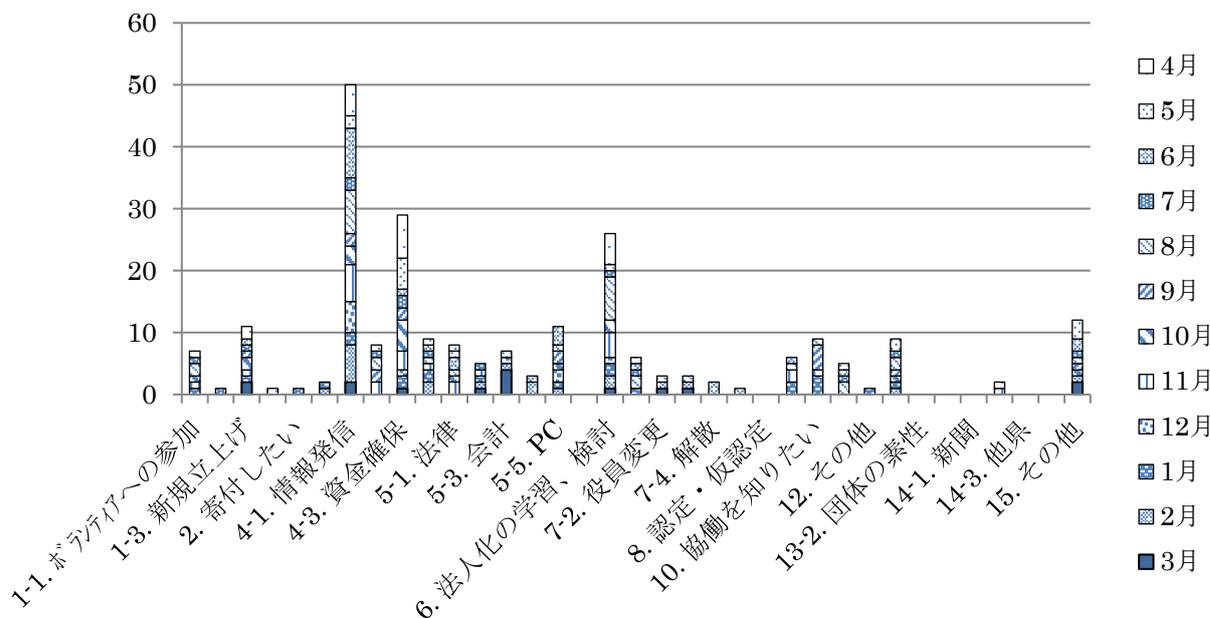
また、ホームページも写真を多用し親しみやすく、FBやブログ、ツイッターにも、わかりやすく、様々な情報を発信しています。「ばんたび」や「かわら版」はHPでも閲覧していただくことができます。静岡市の市民交流サイト「ここからネット」にも情報を掲載しています。希望者にはメールマガジンも月2回お送りしています。

(2) 市民活動に関する相談

- ・市民活動への参加、団体の新規立ち上げ、NPO法人の設立等に関する相談に対応しています。
- ・面談は予約制を基本としますが、予約なしに来館された方に対応することも多くあります。
- ・特に多い相談内容は、活動の仕方（情報発信、資金確保等）、法人化の学習・検討などです。
- ・相談件数は、前年度の300件を60件ほど下回り、238件でした。
- ・依頼者のニーズに即した対応に加え、他団体や他セクターとの協働の促進、助成金獲得後のフォロー等、活動をより発展的なものとするための伴走型の支援を行っています。

	H31.4	R1.5	R1.6	R1.7	R1.8	R1.9
相談件数	24	19	26	16	30	15

	R1.10	R1.11	R1.12	R2.1	R2.2	R2.3	合計
相談件数	18	25	10	21	19	15	238



グラフ 相談の内容および件数

(3) 市民活動に関する講座等の実施

◇主催講座

番町センターが企画運営する講座は、社会課題への気付きを促す啓発的な意味合いの講座と市民活動団体が育つための実務講座との両輪で進めています。

啓発的な講座は、さまざまな社会課題について、まず関心を持ってもらい、当事者意識を育てていくことができるような場にしたいと心掛けています。実務講座は、市民活動をしていく上で役に立つ知識やスキルを学び育む場としています。どちらも知識だけを得る場ではなく、「人を得る」＝「人と知り合う場」になるよう心がけています。

1. 「活動カレンダーをつくろう」平成31年4月21日(日)

ゲスト：弓削幸恵さん(NPO法人まちなびや代表)

参加者 31名

新年度の始まりにあたり、活動計画の立て方の実務講座としてだけでなく、どの事業をメインの事業にするかを決めることが大切となる。それを啓発する意味の講座にもなるよう組み立てていくことができた。お話しをお願いしたのは、NPO法人まちなびやの代表、弓削幸恵さん。事例紹介として、まちなびやの事業についての説明をされ、「子どもと地域を繋ぐ」というミッションのためにどの事業をメインとしてやっていくのか、さまざまな切り口があるけれど、このようなところに気を配っている、などのお話しをいただいた。また、年間計画を立てていくときの要素について、さらに、メイン事業だけではマンネリにもなるので、「チャレンジしてみたい事業」をひとつ決めていくというお話も、参加者にはたいへん参考になったことと思う。弓削さんのお話しを聴いた後は、参加者みんなで、活動の悩みを聴き合い、話し合うという「おしゃべりタイム」をし、さらに、自分たちの活動についての「マイカレンダー」をつくるというワークショップを行った。参加者は「見える化」し、メンバーで共有することの作業とその利便性だけでなく、メンバーシップを育てていくことの楽しさについても実感してもらえた。



2. 「鳥の巣からコミュニティと生命の大切さを学ぼう」令和元年5月26日(日)

ゲスト：鈴木まもるさん(絵本作家)・協力：静大アートマネジメント研究会

講座 9:30~12:00

参加者 76名

ワークショップ 13:00~16:30

参加者 53名・22組

講演をお願いした絵本作家の鈴木まもるさんは、自然あふれる伊豆の暮らしの中でご自分の子育ての日々を絵日記に描き、また身の回りの多くの生命や、さまざまな物語をみつけ、絵本をつくっている。鳥や鳥の巣を観察し、鳥の巣は鳥が卵を産み育てるために最善を尽くすものであると学び、世界のあちこちにまで見に行っている世界ただ一人ともいえる鳥の巣研究者だ。これまでに発行されたたくさんの絵本は多くの方々に読み継がれている。鈴木まもるさんの講演会と、実際に鳥の親になった気持ちで巣作りをするワークショップは、昨年

から様々な講座として展開している SDGs を学ぶ講座のひとつとして、生命の素晴らしさと多様な価値を紹介し、学び考えてもらう啓発講座の一環として実施した。参加者は環境などの保全や子育て支援の NPO 市民活動をしている方々のほか、自分たちの子育てを今まさにしている親子連れも多くあった。参加したみなさんには、いたいけな小さな生命を「かわいい」と感じ守り育てることの、基本であること、そして地球上のあらゆる生命に温かい目を注ぎ、また、環境を守ることが多くの生命を守るために大切であることなどを「自分ごと」にしてもらえた。



3. 「安心安全に夏の戸外を楽しもう！」 令和元年 7 月 20 日（土）

講師：鈴木 一彰さん（しずおか流域ネットワーク）

藪崎 武彦さん（しずおか流域ネットワーク）

中川 虎之介さん（東海大学海洋学部水族応用生態研究会）

参加者 29 名

夏は戸外イベントを企画する NPO 市民活動団体も多い。夏本番を前に、安全安心な企画のつくり方を学び合おうということで、市民活動団体が推薦する講師を招き、集って学び合う場をつくった。夏休みに入ったばかりの週末とあって、子ども連れの方々も参加し和やかな学びの場になった。戸外のイベント企画を立てる上で、忘れてはいけないのは、このところの地球規模の環境変化。自然環境は、開発や地球温暖化などの影響で変わりつつあるということ。これまで九州でしか見られなかった猛毒のヒョウモンダコが三保で捕獲されるというのもそのひとつだ。また、特に山間部の過疎化や、戸外で遊べなくなった子どもたちの増加により、社会の中の自然に対する経験知が減りつつある。そんな今、戸外の自然に親しめる企画には、単に自然の美しさ、楽しさを満喫するだけではなく、社会的な孤立を防ぐ役割や殺伐とした心を癒す効果まで、たくさんある。山、川、海の楽しさを知る 3 人の講師によって語られた様々なお話によって、「危険個所のチェックを事前におきましょう」という単なる問題解決型講座ではない場となった。参加者には、「これからどんな注意をしながら、どんなことをしたいですか」ということをアンケートに書いてもらったが、海や川、山などの自然に「夢」を語ってくださった素敵な文章もたくさんいただいた。翌日も九州などで線状降水帯の発生がニュースになっていた。地震だけでなく豪雨災害も多発している今の日本で、安心安全に向けての自助、共助の仕組みや協力の気持ちが育っていくような講座をこれからも開催していきたい。



4. 「静岡の今を知ろう～夏休み親子新聞塾」
講師：塩澤恵子さん(静岡新聞社)

令和元年 7月 30日 (火)

参加 8組、23名

子どもたちに社会の出来事に関心を持ってもらうことは、将来、市民活動を担い市民社会を形成していく人材を育てるという点で大変重要なことである。そのような意図から、本講座を開催した。参加者は親子8組17名、静岡新聞社2名、番町センター3名、取材1名の計23名。事前に近隣の小学校3校にチラシを配布したが、夏休みにもかかわらず、集客に苦労した。しかし、今回初めて番町センターを訪れた参加者も数家族あり、多くの市民に当センターの存在を知っていただいたことも、一つの成果であった。講座の主題である「新聞スクラップをしてみよう」では、親子それぞれに関心のある記事を選んでいたので印象的である。特に、子どもでも「奈良公園のシカのビニール袋等の誤飲」「海洋プラスチックごみ」「京都アニメーションの放火殺人事件」など、社会性のある話題を取り上げ、自分の考えを付け加えている様子は、とても頼もしかった。今回の講座は、対象が親子であったが、「タイトル」「リード」「本文」「写真」の配置などは、われわれ市民活動のスタッフが聴いても、講座等のチラシを作る上でも参考になる内容である。アンケートでは、「[社会の出来事を]親子で考える機会となり、良かったです」「子どもが新聞に触れる良い機会になりました」などの感想が寄せられ、大変好評であった。市民社会の構築に資するこのような親子向けの講座を、今後も開催していきたい。なお、本講座では、松本空さん(清水区在住、焼津高校女子総合学科1年生)が職場体験学習として会場準備、受付、運営補助、写真係を担当してくれた。本講座を通じて、若者に市民活動の意義や当センターの役割を理解してもらったことも、大変有意義であった。

5. 「ファシリテーショングラフィック講座」
講師：絹村里佐子さん (CLIP)
武田てるみさん (CLIP)
松浦瑞希さん (CLIP)

令和元年 9月 15日 (日)

参加者 42名

「会議や話し合い“あるある”が生まれてしまうのは何故なのか。そんな会議では、せっかく会議に集ったみんなの想いや考えを引き出せない。問題解決や合意形成を促進するためのファシリテーションを学び、さらに「話し合いの流れを描いていく技術」を学びましょう、と企画した。

牧之原市では、市の予算で「市民ファシリテーター養成講座」を実施し、その後多くの市民ファシリテーターが活躍しながら、市のいろいろな事業に市民の合意が反映していく素晴らしいシステムを作り上げている。次世代へつなぐために、高校生ファシリテーターの養成講座も行っており、今回はその修了生の高校生もひとり講師として来てくれた。順を追っての講座進行も大変わかりやすく、参加者の笑顔も引き出して、様々なスキルはあること。しか

し、スキルだけではないことを参加者のみなさんは納得して帰られた。いろいろな会議の場で、このような学びをした市民がファシリテーターの役目を担い、より良い会議となっていくこと、そして、多様な、より良いアクションが実際に生まれていくことを期待したい。



6. 番町市民活動センター10周年記念講演会

「参加の力 ～共感や主体性をどうつくるねん～」 令和元年 12月 21日 (土)

講師：早瀬昇さん ((福) 大阪ボランティア協会理事長)

参加者 61名

番町センター10周年記念講演会は、NPO界の論客のひとり、早瀬昇さん(大阪ボランティア協会理事長)を講師に招き、聴衆には多世代のいろいろな立場の方々が参加された。

早瀬氏の講演は『そもそもNPOは米語。英国ではVoluntary Organization(直訳：自発的な組織)です』という話から始まり、自発的だからこそその強みと弱みや『参加』の意味、その持つ力へと発展し、最後には『内発的意欲』の高め方にまで至った。

『この人、この仕組みを放っておけない。何かできないか、と始め、共に歩む仲間を見つけ合って、一步踏み出す温かい活動が市民活動、NPO活動なんだ。』

そう熱く語ってくださった早瀬さんのお話は、この講演会に参加した60人の方々の心に響いた。最後にはワークショップも行い、参加者からはたくさんの意見がでて大変盛り上がった。

アンケートでは、「楽しくて、おもしろくて、価値観まで変わるような講演は初めてでした」

「時間があつと言う間で、有意義なお話ばかりでした」「市民ならではの「参加の力」をつけていきたい！」という声があがっていた。

市民活動に取り組む皆さんへのエールとなる2時間であった。



7. 「NPO法人の理事・監事の役割、会計担当者の役割等について」

講師：杉山明喜雄さん(公認会計士)

令和2年 1月 18日 (土)

参加者 28名

相談業務に対応しているなかで、「NPO法人の役員(理事・監事)に就任するが、実は何をしたらいいのかわからない」「会計を担当しているが、何のお金をどの勘定科目に分類したらいいかわからない」などの悩みを抱えている方が少なくないことに気づく。そのようなこ

とから今回、NPO 法人の役員と会計担当者の役割を改めて学び直すことを目的として、公認会計士の杉山明喜雄氏を講師にお迎えして本講座を開催した。内容は、まず NPO 法人の役割が「不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与」することであり、そのために「コンプライアンス」と「コーポレートガバナンス」が強く求められる旨の説明があった。この基本的な前提が説明されたことで、後段の理事・監事の役割がよく理解できることになった。会計にも関連して特に重要と思われたのは、「役員報酬の取扱い」である。NPO 法第 2 条第 2 項 1 号ロの規制に該当する役員報酬は、管理費に計上されているものであり、事業費に計上されたものは含まれない旨の説明は、会計担当者にとっても参考になるものであった。また、理事・監事が負う損害賠償責任についても、実際の事例を用いた分かりやすいものであり、受講者たちの責任感を喚起する重要な内容であった。

8. 「番町防災の日」 映画「逃げ遅れる人々」上映とトークセッション』

令和 2 年 2 月 16 日（日）

参加者 49 名

ゲスト：飯田基晴さん（『逃げ遅れる人々』映画監督）

鈴木まり子さん（(特活) 日本ファシリテーション協会フェロー

「番町防災の日」は、防災について考え、「自分ごと」として持ち帰っていただきたいという趣旨をお話しし、まずは飯田基晴監督が製作した映画「逃げ遅れる人々～東日本大震災と障害者」を上映して、参加者に観ていただいた。映画は東北大震災という未曾有の大災害時に、いかに人々が生き抜いたのか、暮らしを取り戻すまでの間にどんなことがあり、どんな思いをしたのかが描かれている。飯田監督が現地に行き、出会ったひとりひとりのお話を引き出していく。非常時だからこそ助け合って、というのは「綺麗事」だった現場の話。堰を切ったように話す人もいれば、なかなか話してもらえない人ももちろんいる。障害故に避難所で受けた差別、排除の動き。また、突貫工事で作られた仮設住宅にはバリアフリーの概念がなく、何か月も外出できなかったという、気持ちのふさがる状況の話などが描かれる。参加者は、いわゆる健常の人もいれば、お子さんが障害のある方やご自身が身体、精神などに障害のある方もいらした。映画を観た後のトークセッションも、みな様々な思いを語り合い、問い合うことができた。人々の想像力が貧弱になっているといわれている現在の社会で、映画をきっかけに、このような「お互いを思い合える場」を作ることができたのは、たいへんうれしいことだ。まずは、人を思いやるという気持ちが、NPO 市民活動を活性化しうる原点だ。これからもこのような場をつくっていききたい。



◇10周年記念行事「番町学園祭～むすんでつないで10周年」

令和元年10月20日（日） 来場者数 2,612名

公設民営の市民活動センターとしてオープンして10周年の節目の年。開会式に静岡市市民自治推進課の山口明哲課長、静岡市清水市民活動センターの磯谷千代美センター長、裾野市民活動センターの深野裕士センター長と3人のご来賓にお越しいただき、挨拶をしていただいた。どの方からも静岡市のNPO市民活動が盛んになりつつあること、番町市民活動センターは静岡市に根差した活動者や市民とのつながりを大切にしていることなど、ご評価をいただき、センター長五味が謝辞を述べ、また、このような形で周年行事をすることの意味と、今回のテーマについてお話した。式典終了後は例年通り開会式記念写真を撮影した。今年は、会場の体育館の中央に大きなモニュメントを設置したので、上からの記念写真も撮影しようと、大浜ビーチフェスタ実行委員会さんのご協力を得て初めてのドローン撮影に挑戦した。「むすんでつないで」をキーワードに、メッセ、マルシェなどのブースは、複数の団体のコラボレーションで創り、また、パフォーマンスステージもなるべく複数団体のコラボで披露していこうということを決め、「市民活動」と「番町市民活動センター」とを広く市民に知ってもらい、様々なセクターがつながる機会として、多くの協働の工夫を生むことができた。



○参加団体ならびに協力団体

56 団体（順不同 敬称略）

メッセ

【日中・異文化おもてなし】静岡市日中友好協会 & EGG 異文化理解教室

【子ども守り隊】うちっちも安定ヨウ素剤配るっち & ママの働き方応援隊 静岡校

【心の絆つなぎ隊～おちゃっこ&ボラ協～】しずおかおちゃっこ会 & (特非) 静岡県ボランティア協会

【避難と防災基礎知識】日本防災士会静岡県支部 & 清水災害ボランティアネットワーク

【地域の産業遺産を紹介する】(特非) 助け合いネット静岡 & 小川三知を讃える会

【ハロウィンフォトスペース】ママの部活動&クラフト PUPPY&ふじのくにニッポンの縁側フォーラム&フラワーベル

【フィリピン PAGKAKAISA (団結)】PEACE カフェ&フィリピン NAKAMA

【つながる!! ゲームカフェ】任意活動団体 YokaYoka & 静岡 2.0

【小麦粘土であそぼう!】チーム彩&NPO 法人トリプルエス

【むすんでつないで未来へ】(特非) 子ども虐待防止センターしずおか & NPO 法人しずおか LGBTQ+ & NPO 法人ホスピタル・プレイ協会 & 静岡市番町市民活動センター

パフォーマンス

【さくらの架け橋から栄光の架け橋へ】さくらの架け橋会&チーム絆コンサート

【リコーダーと朗読の為の「わたしのえほん」】MYROS & おはなしバスケット

【心を育むコトバと声を届けよう。わらべ唄をうたおう】

昔ばなし朗読研究会かたかご会&しず里おはなしの会

【炎のギタリスト】 炎のギタリスト原大介

【スタンド・バイ・ミーからポンポコリンまで】 アンクルパラダイス&一番町・三番町学区

【ITIK-ITIK(アヒルの踊り)】 フィリピン NAKAMA

【共生(障がいの有無・国の違いにかかわらず共に生きる)】

静岡市日中友好協会&静岡ハンディキャップ太鼓の会

マルシェ

【足久保のちいさなパン屋さん】 ワタナベカーリー

【もぐもぐキッチン&Sweets-YS】 認定NPO法人活き生きネットワーク&Sweets-YASU

【イギリスの焼き菓子をあなたへ~ホクホクの焼き芋あるよ~】 静岡ゆうきの会 &BAKE ON

【オーガニック食品専門店あくつ】 リアルフードあくつ

【子ども消防士体験】 静岡市消防団静岡第4分団

【ペレット燃料で焼くピザ焼体験】 もくペレ&柚プロジェクト

【創業70年味の歴史と深さを感じてください 静岡おでんおがわ】 静岡おでんおがわ

【ごはんカフェの美味しいお弁当】 ごはんCafé SHIMADAKE

【むすんでつないでおむすび弁当とおすし】 カフェ奏楽遊楽 &焼津まぐろ家一兆

【丸子・番・パン・ウインナー】 NPO法人和っしょい夢街道

子ども広場

【こども10円商店街】 NPO法人まちなびや&柚プロジェクト

【カラフルかるたで楽しいメロディ♫】 しぞ〜か防災かるた委員会 &カラフルメロディ

企画・運営

番町学園祭実行委員会 35名 (20団体) 実行委員会芸術班 4名

高校生・大学生・ボランティア 11名

特別協賛

公益財団法人静岡県グリーンバンク/静岡県地球温暖化防止活動推進センター/NPO法人ヒューマン・ケア支援機構/大浜ビーチフェスタ実行委員会



【10周年ルーム】 @番町センター1階オープンスペース

10周年という節目の年に、過去を振り返り、未来を展望することをテーマに展示を行った。来場者への記念品(2020年カレンダーと協賛団体からのノベルティグッズ)を授与するスペースに加え、利用者・関係者・職員OB&OGからのメッセージの掲出、当日来館者によるメッセージ記入、『ばんたび』と『かわら版』のバックナンバーの展示、番町センター10年の歩みを振り返るポスター展示などである。記念品の授与は、来場者が「通信簿」に3つのスタンプを集めてくるのが条件となっている。これにより、来場者が様々な展示・催しを観てくれることになり、市民活動の多様性を知っていただく機会になった。利用者や関係者・職員OBからいただいたメッセージはとても心温まるもので、スタッフたちにはもちろん、それを見る来場者たちへの勇気づけにもなった。10年の歩みのポスターは、長期にわたって使用して下さっている利用者・来館者の方たちから大変好評であった。もっと工夫すべきであったと反省する部分もあるが、非常に意義のある展示ができたと思う。

【実行委員会】

運営に関しては実行委員会形式を採用し、「初夏の集い」での企画検討から始め、計5回開催した。また、今回もたくさんのお出展、出場希望があり、番町学園祭へ参加する成果を認めている団体が増えています。9月中旬に参加申込みを締切り、出展団体を確定し、交流会&説明会「出展者の集い」を10月10日に、昼の部、夜の部と2回開催し、参加者同士が知り合い、番町学園祭と一緒に盛り上げる仲間であるという意識を持つことができるようにしています。

体育館にも足を運んでもらうという目的で会場設営の工夫を話し合い、「ゲートをつくる」「グラウンドから体育館への足跡をつける」「体育館の中央に大きなキャラクターモニュメントを作る」というアイデアを形にすることができた。モニュメント、高さ5メートル以上の「おむすびちゃん」は、すべてリサイクルできる素材（静岡県指定ゴミ袋・紙ひもなど）で作成した。来場者は、みな目を見張り、好評でした。出場団体と来場者の交流だけでなく、団体同士の交流やスタッフと来場者の交流の場面も多く見られ、「みんなで作る番町学園祭」のコンセプト通りになった。

◇共催講座・共催企画

番町センターが、企画・運営などの相談にもり、入居団体、利用登録団体との共催講座を積極的に開催しています。また、これらの講座により、広く市民に市民活動の多様性を理解してもらうことができます。

- (1) 「がん患者・家族の交流会①」 平成31年4月13日（土）
TalkSpace
参加者 15名
- (2) 「わたしがタイで見たセカイ」 平成31年4月27日（土）
特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会
参加者 28名
- (3) 「クリエイティブアクセシビリティについて考える」 令和元年5月2日（木・祝）
SPAC
参加者 52名
- (4) 「ひかり市民センター古庄オープンイベント」 令和元年5月11日（土）
ひかり市民センター
参加者 120名
- (5) 「災害図上訓練 DIG」 令和元年5月11日（土）
ふじのくにDIGセミナー実行委員会
参加者 60名
- (6) 「バズワードカフェ：『自立』って何だろう」 令和元年5月25日（土）
任意活動団体 YokaYoka
参加者 12名
- (7) 「子どものためのプログラミング道場」 令和元年6月9日（日）
CoderDojo 静岡
参加者 51名
- (8) 「ファシリテーション講座 2019」 令和元年6月15日（土）～16日（日）
特定非営利活動法人 静岡県ボランティア協会

-
- 各日参加者 30 名
- (9) NPOプレゼント講座「しずおかのあなたができること～SDGsを考える。その1～」
令和元年6月29日(土)
特定非営利活動法人 静岡県ボランティア協会
参加者 48名
- (10) 映画「サマーキャンプ in 焼津～野に咲く花のように～」上映会&トークセッション」
令和元年7月8日(月)
まちづくりを考える会 Hygge
参加者 27名
- (11) 「がん患者・家族の交流会②」
令和元年7月13日(土)
TalkSpace
参加者 9名
- (12) 「当事者と支え手の心を整え隊」
令和元年8月3日(土)
NPO 法人トリプルエス
参加者 18名
- (13) 協働事業「お泊りしよー友達ダイスキ」 令和元年8月8日(木)～9日(金)
NPO 法人和っしょい・夢街道
参加者 18名
- (14) 「みんなで考えよう地域共生～インクルーシブってな～に？」 令和元年8月17日(土)
ひまわりキッズ応援団
参加者 51名
- (15) 「夏休み宿題おたすけ講座 新聞感想文コンクールに挑戦」 令和元年8月20日(火)
静岡新聞社
参加者 13名
- (16) NPOプレゼント講座「座談会ライブ♪ 次世代につなぐ
～NPOの志・仲間・経営～」 令和元年9月28日(土)
特定非営利活動法人 静岡県ボランティア協会
参加者 36名
- (17) 協働講座「お泊りしよー友達ダイスキ」 令和元年10月26日(土)～27日(日)
特定非営利活動法人 和っしょい・夢街道
参加者 26日 9名、27日 7名
- (18) 「地域共生フォーラムしずおか」@シズウェル 令和元年11月3日(日)
特定非営利活動法人 静岡県ボランティア協会
参加者 85名
- (19) 「がん患者・家族の交流会③」
令和元年11月9日(土)
TalkSpace
参加者 16名

- (20) 「番町センターに走る本屋さんがやってきた」 令和元年 11 月 10 日（日）
 特定非営利活動法人ヒューマンケア支援機構 協力：ひかり市民センター
午前 20 名、午後 50 名、計 70 名
- (21) 「男の子・女の子カラダ教室 いのちってすごい」 令和元年 12 月 7 日（土）
 ママの部活動
参加者 51 名
- (22) 「シュタイナー子育てフェスタ in しずおか」 令和 2 年 1 月 12 日（日）
 静岡子育てひろば“あおい”
参加者 295 名
- (23) NPO プレゼント講座「座談会ライブ♪誰もが輝いて生きる！～SDGs を考える。その 2～」
 令和 2 年 1 月 19 日（日）
 特定非営利活動法人 静岡県ボランティア協会
参加者 50 名
- (24) 「お泊りしよー友達ダイスキ④」 令和 2 年 2 月 15 日（土）～16 日（日）
 NPO 法人和っしょい・夢街道
両日参加者 22 名
- (25) 番町防災の日「しぞ～か防災かるた大会」 令和 2 年 2 月 16 日（日）
 しぞ～か防災かるた委員会
参加者 51 名
- (26) ホワイトトリボンラン応援企画 バーチャルランお勧めデイ 令和 2 年 3 月 1 日（日）
 ホワイトトリボンラン 2020 静岡実行委員会
参加者 116 名
- (全 26 回/1412 名)

◇後援・協力講座など

- (1) 第 2 回絆コンサート@AOI 令和元年 8 月 12 日（月・祝）
 さくらの架け橋会
参加者 600 名
- (2) 「演出家ユディ・タジュディンによる演劇ワークショップ」 令和元年 11 月 12 日（火）
 SPAC
参加者 27 名
- (全 2 回/627 名)

◇コミュニティカフェ

- 「えほんのそのさん せみのぬけがらアート」 つみきのそのさん
 ①令和元年 7 月 20 日（土） ②令和元年 8 月 17 日（土）
- (全 2 回/30 名)

◇連携及び交流促進に関すること

入居団体や利用団体との協働により、多くの共催講座やコミュニティカフェを開催し、多種多様な市民活動をサポートしています。共催講座は、17団体と計26回、参加者は1412名でした。さらに、障がいの有無の隔たり無く参加できる「絆」を結ぶコンサートの後援も行いました。令和2年度も多くの団体と、企画の段階から共に考えながら開催していきたいと思えます。また、ひとり（一団体）よりもふたり、ふたりより三人（複数団体）と、共に活動できる仲間を増やしていくことの大切さに共感し、その方法を探る為の機会になるような企画を、入居団体会議や「宴」と名付けた利用者会議、また幅広く多くの市民活動団体が参加できる拡大運営委員会などの場でも実施しています。

- (1) 初夏の宴（利用者会議） 令和元年6月20日（木）
- ①昼の部（13：30～15：00）
ミニ講座講師：特定非営利活動法人 音楽の架け橋メセナ静岡
特定非営利活動法人 助け合いネット静岡
- ②夜の部（19：00～20：30）
ミニ講座講師：特定非営利活動法人 ホスピタルプレイ協会
静岡市日中友好協会
昼の部・夜の部合わせて参加者 41名
- (2) 令和元年7月15日（月・祝）海の日ゴミ拾いイベント「BLUE SANTA2019in静岡」
@安倍川河川敷：柚プロジェクトと協働実施 参加者 13名
- (3) 令和元年10月10日（木）10周年祭出展者の集い
昼の部参加者 16名、夜の部参加者 33名
- (4) 令和元年11月7日（木）冬の宴（利用者会議）
ミニ講座講師：（一社）日本環境NPOネットワーク
（特非）子ども虐待防止センターしずおか
参加者 34名
- (5) 令和2年2月20日（木）拡大運営委員会
参加者 18名・番町センタースタッフ 5名

市民活動支援システム「ここからネット」に関して

番町センターでは、利用登録団体に対して、静岡市の「ここからネット」の利用をお薦めしています。静岡市「ここからネット」は、以下のことができます。

- ①市民活動団体の登録
②市民活動団体等が実施するイベント情報の公開
- 市民活動センターからの情報も発信しています



◇館内掲示

「笑顔がいっぱい」と名付けた1年間に番町センターの講座などに参加した方々の笑顔ショットを掲示しています。もちろん市民活動団体から持ち込まれる広報チラシはわかりやすく掲示。その他、番町センターの行事は「番町カレンダー」で、ひと目でわかりやすく心がけています。

◇事務室・事務ブース

貸スペース。市民活動団体の活動拠点として利用できる事務室が4室。事務ブースが12ブースあります。3カ月に1回の入居団体会議は、団体同時の情報交換の機会になっています。また、お互いの活動に興味を持ち、協力、協働できるように入居団体情報パネルを設置し、最新の情報を掲示しています。

8. NPO プレゼント講座（静岡県労働者福祉基金協会委託事業）

① 「しずおかのあなたができること～SDGsを考える。その1～」

日時：令和元年6月29日（土）13:30～16:30

企画・目的

SDGs（持続可能な開発のための2030アジェンダ）とは何か。そして、今、社会はどう進もうとしているのかを学び、共に歩むことができる人（しずおかの人）と知り合い、歩みの方向を探していこう。
次のような問いを参加者に呼び掛けることによって、表面的な知識ではなく、「自分ごと」として持ち帰ってもらう。

実施状況

講師：木下 聡さん（しずおかSDGsネットワーク代表）
進行役：五味 響子（静岡県ボランティア協会・静岡市番町市民活動センター センター長）
会場：静岡市番町市民活動センター 2階大会議室
定員：40名・参加費：500円（資料代等実費）

参加者

静岡市のNPO（NPO法人、市民活動団体）、市や県などの行政、ボランティア、社会的課題を追求している学生サークルのメンバー、または個人
講座参加者：49人 ・ 参加団体数：43団体

講座内容

- ①講師による解説
- ②グループトーク
- ③自分の捉えたSDGsを描画、または造形によって表現する
- ④それぞれが創ったものを発表し、互いの考えに気づく
- ⑤共感や興味を持った人同士が自由に交流する



② 座談会ライブ♪「次世代につなぐ～NPOの志・仲間・経営～」

日時：令和元年9月28日（土）13:30～16:30

企画・目的

東京都八王子市の長池公園を市民主体のカタチで成功させ、運営を担うNPO法人、NPOフュージョン長池の理事長を一昨年、若い世代に引き継いだ富永一夫さんをゲストにお招きする。エリアマネジメントの第一人者としても有名な方だ。

一人ひとりの市民や団体だけでなく、企業も協働して公園を運営し、行政も動かし（しかも市や都だけでなく国までも）、多くの人々が「自分の公園」と思っているというMagicには、どんな経緯や工夫や戦略があったのだろうか。

人々が「自分の場」と自主的に関わっていくというのが、理想の「場づくり」。長池公園に集う高齢の方から子どもたちまで多世代の方々はどうしてここを自分の「場」と思うようになったのだろうか。

そして八王子市に住む若者が「引き継ぎたい」と手を挙げた時、ぽ〜んと理事長職を手渡し、今は全国へ「協働の場づくり」のお話をしに駆け回っておられる富永さん。次世代につなぐことに苦勞しているNPOが多い状況の中、その部分のお話しも興味深いことだろう。

実施状況

講師：富永一夫さん（NPO法人 NPOフュージョン長池 元理事長）

進行：五味 響子（静岡県ボランティア協会・静岡市番町市民活動センター センター長）

会場：静岡市番町市民活動センター 2階大会議室

定員：40名・参加費：無料

参加者

静岡市のNPO（NPO法人、市民活動団体）や、ボランティア、学生。個人参加も含む。

講座参加者：35人 ・ 参加団体数：29団体

講座内容

富永さんのお話（骨子）

自分は、元外資系の会社でサラリーマンをしていました。47歳の時に会社をスパッと辞めてNPOをつくった。それは「人生でやりたいことは全部やりたい」と思った47歳の覚悟で

す。というとかっこいいのですが、まあ被爆2世でもありいつ死ぬかわからない。会社の目的だけが自分の人生目標でいいのか、と疑問を持ち、つまり個人の自立&人生反省型のNPO起業です。そして元々、大学の卒論のテーマが「ピラミッド型からネットワーク型組織へ」でしたから、何をしたいかと考えた時にスムーズにこう考えられたわけです。インターネットの普及でますます“PERSON TO PERSON”が大切になるとも思っていた。ですから、助け合いのコミュニティをつくるために、公園の指定管理を取ろうと直ぐ思ったんですね。公園という場所をつくる。狭い自分の団地でできることは、公園という広いエリアでも実は同じなんです。そしたらNPO法人になら指定管理を出してもいいと行政が言ったのですぐつくった。そして創業者といわれているわけですね。ですから、ビジョンは「多世代で助け合いのコミュニティをつくること。それは生きる力を育む大地になる」ということです。小さなコミュニティでしていることを同心円的に広げていったらいいのではないかな。でもそこにはいろいろな人がいるのですから、「なんとなく品質」です。人間界も自然界も包括しているから単純に「課題解決」なんかできません。エリアマネジメントというのは、そういう「単純」なものではないことを知っていなければなりませんね。例えば「集まりましょう」といくら言ったって今の時代の人は強制的に集めるなんてことはできません。そして、長池公園、うんあそこは場所が良いから人が集まるんだよね、でもありません。人はそれぞれ自主的に「勝手に」来るんです。人は勝手に来る。だから、私たちはその「場」のお世話係としているんです。勝手に来たい人に「きっかけ」をつくってあげているんです。よく「ボランティアは、自発の意志ですること」といいますよね。それと同じです。「自分の〇〇」と思えばみんな来るんです。



③ 座談会ライブ♪「誰もが輝いて生きる！生命の尊厳とは～SDG sを考える。その2～」

令和2年1月19日（日）13：30～16：30

企画・目的

SDG s（持続可能な開発のための2030アジェンダ）にはいろいろなことが提示されている。それを知り、そして、一人ひとりが行動をおこしていくことが大切だ。「SDG sを考える。その1」で講師をお願いしたしずおかSDG sネットワーク代表の木下聡さんから、再び17の目標とそれぞれの関わりについて学び、次にジョイセフの市民活動グループ長の小野美智代さんをゲストに、目標の一つである人権の問題、パートナーシップの問題を学ぶ。また、世界に目を向けて活動している木下さん、小野さんに加えて、高校生ながら世界の様子を学んで足元の活動を始めたレッドフォード望生さんも交えて座談会を行い、参加者に、自分と社会とのいろいろな関わり方について、思いを持っていただく。

実施状況

講師：小野美智代さん（ジョイセフ市民社会連携グループ長）
木下聡さん（しずおかSDG sネットワーク代表）

座談会ゲスト：レッドフォード望生さん（国際基督教大学高等学校3年）

進行：五味 響子（静岡県ボランティア協会・静岡市番町市民活動センター センター長）

会場：静岡市番町市民活動センター 2階大会議室

定員：40名・参加費：無料・資料代500円（一般）学生は無料

参加者

国際協力などに関心のある層を中心に誰でも参加可能

静岡市のNPO（NPO法人、市民活動団体）、市や県などの行政、または個人参加

講座参加者数45人・参加団体数26団体

講座内容

SDGs（持続可能な開発目標）とは、2030年までに目指すべき社会を実現するための国連で合意された目標です。昨年6月29日に開催しました「SDGsを考える。その①」の続編として、3人をゲストにお迎えし、木下さんからはSDGsの17の目標について、小野さんからは、世界で解決できていない問題の内、どのようなことに気づいてNGOジョイセフで活動するようになったのか、レッドフォードさんからは、大学生活の中で見出したものについてお話を伺い、座談を進めました。以下はほんの一部ですが、ご紹介します。

（木下さんのお話・要約）世界を考えると、ほんの一部の人たちの経済成長や発展によって、ほかの大多数の人たちが困難を強いられるような構造です。この状況は持続不可能ではないか、ということでSDGsとして17の目標が設定されています。

SDGsはあくまで目標であって、活動の目的ではありません。また、SDGsは環境の面から語られることが多いのですが、目標の第1番が貧困撲滅ですし、アジェンダの14項目の一番上に「人間」と書かれています。環境を守ることも重要ですが、人間そのものに力点を置いていることはお伝えしたい。目標の4番に「誰一人取り残さない」ということだけでなく「最も遅れているところに第一に手を伸ばす」と書かれています。取り残されそうな人を最初に救おう、ということを知っておいてください。生活のなかで何かを実践しようとするとき、まず、自分の生活のなかでつながることを意識してください。次に、自分の生活の中でできる限界までやってみる。さらに、個人の取り組みを阻む社会構造を知ると、誰かとパートナーシップを結んだり、誰かに訴えかけることによって変えるべきものが見えてくると思います。

（小野さんのお話・要約）カンボジアのプノンペンで働く女の子と友達になり、彼女の家に1週間ほど泊まらせていただき、2年後ぐらいにふらっとまた彼女の自宅に遊びに行ってみたら、彼女は結婚して出産のときに亡くなった、とご家族から聞きました。現地の人たちは「出産で亡くなる人は結構いるから」と言っていて、そのときに初めて日本以外の出産の現状を知りました。元々、日本のジェンダーに興味があった私は、国際協力、命ということへの関心が高まりました。世界には女性だからという理由で命を失ってしまう現状がある。この不公平がとても許せない。ジョイセフで働いている理由は、「女だからという理由で悲しむ社会を変えたい」という思いです。

ジョイセフは、1968年に日本で生まれて、日本にしかない組織です。妊産婦の女性を守ることを中心に、アフリカと南アジアで活動しています。女性の問題を解決すると17目標のその他のものも解決が進む、と世界では言われています。まだまだ女性は弱い立場にある。支援を卒業しても現地の取り組みが続くように、ジョイセフではミシンの使い方、就労支援、農業技術などの人材育成を支援しています。

（レッドフォードさんのお話・要約）高校のスタディーツアーの一環で、エチオピアを訪れました。首都のアジズアベバではアナハラ語が話されていますが、車で1時間ほど離れたエント

トではオロニア語という全く違った言語が話されていて、情報が伝わりにくいという問題がありました。

その一方で、地域の人たちの結びつきが強いということに気づきます。具体例として、レストランでは基本的に食べきれないほどの量を出すんですね。無駄かと思われるんですけど、残ったものをスタッフが持ち帰って、豊かとか貧しいとかに関係なく、家族や近所の人に分けるという文化があります。その文化を日本でもと思い、学校がある三鷹市の近辺で始めたのが「かけはしプロジェクト」です。日本の食料廃棄量は、国連 WFP の食料支援量の 1.7 倍です。エチオピアでは、食料を共有してみんなで生きていこうという精神があるのに、ある意味で豊かな日本では、大量に食料が捨てられてしまっている。これを解決したいなと思って…子ども食堂に注目しました。食料不足や人材不足によって月に 1 回程度しか行えていないというところも多いのが現状です。それを、月に 2 回でも、1 回でもいいから増やせることをしたい。農家さんからいただいた野菜を提供して、私たちも高校生グループとして子ども食堂にボランティアに行き、運営を手伝っています。

* * * * *

SDGs という国連の目標を個人レベルで自分事にするのは難しい、と感じるかもしれません。しかし、目の前にある課題に立ち止まって「世界の問題につながっているかも？」と考えることで、身の回りの問題をグローバルな視点で解決することにつながるのでしょうか。多くの気づきが得られた座談会ライブ♪でした。



V. 組織及び財政基盤強化

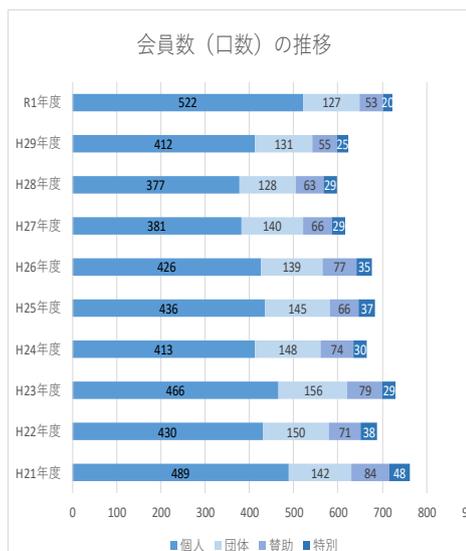
1. 自主財源を確保していくための事業

(1) 会員管理・会員獲得

民間の市民活動・ボランティア活動推進機関の強みである自主独立性を保つためには、活動への理解と支援の上に寄せられる会費や寄付金収入、また自主事業など安定した財源の確保が不可欠であることから、一人でも多くの支援者を得るため、より信頼される NPO として活動していくために会員獲得と募金に取り組んだ。

令和1年度まで10年間の会員数の推移（口数表記）

年度	個人	団体	賛助	特別	合計
平成22年度	430	150	71	38	689
平成23年度	466	156	79	29	730
平成24年度	413	148	74	30	665
平成25年度	436	145	66	37	684
平成26年度	426	139	77	35	677
平成27年度	381	140	66	29	616
平成28年度	377	128	63	29	597
平成29年度	412	131	55	26	623
平成30年度	421	119	58	18	616
令和1年度	522	127	53	20	722



年間を通じて本協会事業の参加者や関わってくださった方々に協力を呼びかけたほか、多くの方に本協会の活動を支援いただくために、6月1日～7月31日の2ヵ月間を会員増強キャンペーン期間として協会への理解と協力をお願いした。また、災害ボランティア参加者には会員になっていただくことを条件とし、会費収入増につながった。

(2) ボラ協の年末年始とくべつ募金

民間の中間支援機関として更に事業を進めていくための自主財源確保を目的に、年末年始とくべつ募金の呼びかけを行ったが、本年度も同時期に複数の募金活動を実施した。

- ①実施期間：令和1年12月1日～令和2年1月31日
- ②依頼先：協会会員、昨年度協力者、機関紙配布先、社会福祉協議会、協会事業参加者など
- ③募金総額：694,857円（107件の個人・団体より）

(3) 第35回しずおか福祉バザール

市民自らが主体となり取り組むボランティア活動・市民活動に向けた情報提供や、東日本大震災を教訓に災害ボランティアやまちづくりについて考える機会、協会と市民や社会資源とのネットワークを広げることがを目的にバザールを開催した。



- ①開催日 令和1年11月30日（土）
- ②会場 静岡市青葉緑地 B1・B2 スペース
- ③内容
 - ・ボランティア・市民活動情報コーナーの設置、パネル展示
 - ・台風19号長野災害ボランティア・東日本大震災復興支援ボランティア活動写真の展示
 - ・ボランティア活動推進のためのバザールの開催
 バザールには、個人・団体・企業などより113件の物品の提供を受け、販売した。また、値つけや当日の運営など129名のボランティアの協力を得た。
 （参加団体）特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会／特定非営利活

④売上げ 388,370 円

(4) リサイクルでボランティアを応援

書き損じた年賀はがきや未使用のまま眠っているはがきの提供を呼びかけ、郵便局で新しい葉書や切手に交換し、情報提供や連絡調整など事業運営にあたる通信費とする。令和元年度は、58 件の個人・団体より 2,411 枚の寄付をいただいた。通信手段の変化や消費税増税にともなう郵便料金の値上げなどにより、件数は前年度 66 件とほぼ横ばいながら、提供枚数は前年度 5,639 枚の半数以下となった。しかしながら今後も個人のみならず、企業・団体への協力を継続して続けていきたい。

また、使用済み切手の提供を呼びかけ、令和元年度は、189 件の個人・団体より 321.311 キログラムの寄付をいただいた。いただいた切手は、切手コツコツ整理ボランティアさん（32 件の個人・団体）に 221 キログラムを整理していただいた。

2. 本業を活かした企業の社会貢献活動との連携

1本のジュースがVolunteerを応援

本業を活かした企業の社会貢献活動との連携として、清涼飲料水メーカーの協力のもとに、清涼飲料水の自動販売機を設置することでボランティア活動の支援につながる仕組み「1本のジュースがVolunteerを応援」に取り組んでいる。自動販売機の売り上げに応じて売上金の中から寄付をいただき、現在 91 台が稼働中。

《協力企業》 ダイドードリンコ(株)
 (株)伊藤園
 東海ビバレッジサービス(株)
 テルウェル西日本(株)
 サントリービバレッジサービス(株)
 ユニヴァーサル商事(株)

《寄付合計》 1,153,829 円

3. 理事会・定期総会の開催と事務局の連携

協会と協会組織の強化、充実を図るため以下のとおり理事会・定期総会を開催した。

(1) 定期総会の開催

開催日：令和1年5月19日（日）

会 場：静岡県総合社会福祉会館ボランティアビューロー

内 容：・平成30年度事業報告について

・平成30年度一般会計及び特別会計収支決算について

・監査報告

・令和1年度事業計画について

・令和1年度一般会計及び特別会計収支予算について

・定期総会記念講演には、甲賀雅章氏(クリエイター)に講演のお願いでき、市民活動を啓発していく上で大変に刺激となるお話を伺うことができた。

(2) 理事会の開催と議案

第1回理事会 5月19日 事業報告、決算

第2回理事会 7月1日 理事長・副理事長・常務理事の選任

第3回理事会 10月31日 中間総括等

第4回理事会 1月30日 次年度の事業方針等

第5回理事会 3月26日 次年度事業計画、予算案審議

VI. 緊急支援の取り組み

1. 「2019年九州豪雨」災害被災地支援活動

8月27日から九州北部を中心に降り続いた記録的な豪雨で、福岡県・佐賀県・長崎県では甚大な被害が発生した。この災害に対し、本協会では現地の状況を確認するための現地調査をはじめ、被災地で使用するタオルの募集、支援募金を実施した。

(1) 現地調査

被害が出ている福岡県久留米市、筑後市、大分県武雄市、大町町など福岡県、大分県への視察を実施した。

実施日：9月2日(月)～4日(水) 3日間

調査者：2名 ※協力：しずおか茶の国会議

(2) 新品タオルの募集と被災地への提供

36件の個人・団体から1,685枚のご協力をいただいた。

(提供先：福岡県久留米市社会福祉協議会、筑後市社会福祉協議会、大分県武雄市社会福祉協議会、大町町社会福祉協議会等に災害に備え備蓄していたタオルとあわせて2,300枚を提供している。

(3) ボランティア支援金の募集と被災地への提供

69件の個人・団体から437,499円のご協力をいただいた。

その中から、大分県武雄市に設置された民間のボランティアセンター「おもやいボランティアセンター」へ20万円を送金した。

2. 「令和元年台風19号」災害被災地支援活動

10月12日、伊豆半島に上陸した台風19号は、東海から東北、長野県など広範囲にわたり大きな被害をもたらし、静岡県内でも東部を中心に各地で被害が発生した。この災害に対し、本協会では災害ボランティア活動を支援するための募金とタオルの募集を行うと同時に、静岡県社会福祉協議会とともに初めて「静岡県災害ボランティア本部・情報センター」を設置し、支援者や県などと協力、情報共有しながら被災市町の災害ボランティア活動の後方支援を行った。また、県内での取り組みが一区切りついた11月からは、長野市へのボランティア送り出しなどの支援活動に取り組んだ。

(1) 被災地支援ボランティア活動のための募金の呼びかけ

145件の個人・団体から12,138,030円にのぼるご協力をいただいた。

(2) 新品タオルの募集と被災地への提供

211件の個人・団体から9,113枚のご協力をいただいた。

(提供先：「平成の杜」、小山町災害ボランティアセンター、長野市災害ボランティアセンター、妙笑寺)

(3) 静岡県内での取り組み

1) 静岡県災害ボランティア本部・情報センター（以下、県災害V本部）の設置と後方支援活動

①人的支援

小山町、函南町、伊豆の国市の災害ボランティア本部に対し、県災害V本部として県社協職員を中心に応援要員を派遣し運営支援を行った。



②資機材の提供、貸出し

県災害V本部として県内3ヵ所に配備している災害ボランティア活動用資機材を、2ヵ所から小山町と伊豆の国市へ貸出し、搬送。貸出し期間：10月14日(月)～31日(日)

③情報収集・発信・共有

- ・市町社協や関係団体等から、被害状況や災害ボランティア本部立上げ及び運営状況などの情報を収集。
- ・県災害V本部・情報センターのWEBサイトで、市町災害ボランティア本部情報などを発信（担当：県社協）。期間：10月13日(日)～31日(日)
- ・静岡県、しずおか茶の国会議（※熊本地震をきっかけにできた緩やかな支援ネットワーク 以下、茶の国会議）などの支援者を交えた連絡会議を毎朝実施し、情報を共有。期間：10月14日(月)～21日(月)

④現地調査

被害は出ているが災害ボランティア本部を立ち上げていない中西部5市の社協に対し、県災害V本部支援チームとしてヒアリングを実施した。

実施日：10月15日(火)

対象地：袋井市、菊川市、牧之原市、藤枝市、焼津市

調査者：3名 ※協力：しずおか茶の国会議

⑤情報共有会議の開催

静岡県内の被災地で支援活動をしている、あるいは支援を検討している団体・組織が、被災状況や対応などの情報を共有し、課題を確認・共有することを目的に情報共有会議を開催した。また、今回の災害対応をふりかえり、県内市町で何があったのか、参加者それぞれが感じたこと、よかったことや気になったことをフラットに共有し、次の災害に活かすことを目的に2回目の会議を行った。

<第1回>

日時：10月17日(木) 16:00～17:15

場所：静岡県総合社会福祉会館 2階ボランティアビューロー

参加者：50名（災害ボランティア団体、社協、行政、士業団体、学生など）

進行：県災害V本部・情報センター

協力：しずおか茶の国会議

<第2回>

日時：2020年3月5日(木)

13:30～16:30

場所：プラサヴェルテ 402 会議室

参加者：30名（社協、行政、支援団体など）

進行：県災害V本部・情報センター（担当：県社協）

協力：鈴木まり子氏（(特活)日本ファシリテーション協会）

池ヶ谷裕太氏（牧之原 CLIP）



2) 現地調査と情報提供

本協会としずおか茶の国会議で、焼津市について更なる聞き取り調査を行った。被害があった地域を歩き、住民の方々に直接話を聞くとともに、市社協が困りごと相談に乗れることを伝えるチラシと県弁護士会の支援情報資料、水害にあったときに役立つ資料を約 180 件のお宅に配布（手渡し、ポスティング）した。

日 時：10 月 27 日(木) 10:00～16:00

調査者：4 名

(4) 県外被災地の支援

甚大な被害を受けた長野市の社協や妙笑寺が本協会と縁があったことから、10 月 25 日(金)にタオルや土嚢袋などの支援物資を乗せたリフトバスとともに事務局長が現地入りし、長野市への支援を決定した。

1) 資機材の提供、貸出しなど

- ① 県災害 V 本部として県内に配備している災害ボランティア活動用資機材を長野市災害ボランティアセンターに貸出した。期間：11 月 1 日(月)～1 月 8 日(水)
- ② 災害ボランティアの移動に供するため、長野市災害ボランティアセンターにリフトバス「愛輪 2 号」を貸出した。期間：10 月 25 日(金)～11 月 15 日(金)
- ③ 静岡からボランティアに出かける人たちや関係者が無料で宿泊できる拠点として、長野市柳原に災害ボランティア拠点「小島ベース」を設置した。事前予約制で延べ 30 名以上の方が利用した。

2) ボランティアの送り出し

ボランティアバスで参加した延べ 208 名のボランティアが、長野市長沼地区を中心に個人宅やお寺、りんご園の泥出しや清掃活動を行った。年末の活動となった第 7 次隊は、妙笑寺を会場に行われた「長沼“復幸”餅つき大会」に協力参加し、節分前に出かけた第 9 次隊は豆まきの準備を手伝うなど、静岡の人たちの気持ちをお届けしながら地元の方々と交流させていただいた。

<活動日・活動者数>

隊次	日 程	人数	隊次	日 程	人数
第 1 次	11 月 9 日(土)	10	第 6 次	12 月 20 日(金) ～21 日(土)	29
第 2 次	11 月 16 日(土)	24	第 7 次	12 月 27 日(金) ～28 日(土)	28
第 3 次	11 月 17 日(日)	24	第 8 次	1 月 17 日(金) ～18 日(土)	21
第 4 次	12 月 6 日(金) ～7 日(土)	16	第 9 次	1 月 31 日(金) ～2 月 1 日(土)	26
第 5 次	12 月 13 日(金) ～14 日(土)	30	計		208

第 9 次隊以降は、長野市では厳冬期に差し掛かったことに加え、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、長野市災害ボランティアセンターが閉所され、ボランティアの受け入れが行われなかったため、本協会としてもボランティアの送り出しを見合わせた。



3) ボランティアバス助成

長野市だけでなく多くの被災地でボランティアの応援が求められていることから、寄せられたボランティア活動支援募金を活用し、静岡県から一人でも多くの方がボランティア活動に参加する一助となるよう、支援にあたるグループや団体を応援する「ボランティアバス」助成を実施した。本協会としては、初めての取組みだったが8団体に64万円を助成し、ボランティアが支援活動に出かけるための後押しになった。

特に新型コロナウイルス感染拡大を防止する観点から、各地の災害ボランティアセンターは閉所され、ボランティアの受け入れがされなかったため、静岡からもボランティア派遣を検討していた団体はも実施を見合わせるようになった。

※9月8日に房総半島に大きな被害をもたらした台風15号への対応として現地調査を行ない、支援準備を検討したものの、10月12日の台風19号への対応が優先されることとなった。

VII. 災害支援の継続的な取り組み

1. 静岡からみかんを贈ろう！クリスマスサンタ隊

岩手県大槌町・釜石市・遠野市・山田町の仮設住宅や災害復興住宅で生活されている方々や、幼稚園・保育園・福祉施設等に県民から提供いただいた“静岡のみかん”をお届けするためにボランティアを派遣した。現地の方々と交流し、震災当時のお話を聞いたり震災伝承施設を見学し、記憶の風化を防ぐとともに被災地の復興状況を見聞する学びの機会を提供することができた。

《“静岡のみかん”をお届けします》

協力者：15件

提供数：451箱

届け先：大槌町・釜石市・遠野市・山田町の仮設住宅や災害復興住宅や
社会福祉協議会、幼稚園・保育園・老人福祉施設・クリスマス
イベント会場

《クリスマスサンタ隊》

開催日：12月20日（金）～23日（月）

参加者：18名（事務局含む）

活動内容：みかんの配布とイベント会場や集会所での交流

震災伝承施設見学（大槌町「文化交流センター震災伝承展示室」、
釜石市「うのすまい・トモス」、陸前高田市「いわて TSUNAMI メモリアル」）



2. 緊急等助成事業

静岡県共同募金会の「緊急等助成事業」で防災倉庫を設置することができている。この取り組みを紹介すると、平成 28 年度に始まり、袋井市にある社会福祉法人明和会敷地内に、平成 29 年度は、駿東郡長泉町の社会福祉法人蒼樹会・特別養護老人ホームさつき園の敷地内に防災倉庫を設置。平成 30 年度、藤枝市にある社会福祉法人富水会 特別養護老人ホーム第 2 開寿園敷地内に防災倉庫を設置している。さらに令和 1 年度、伊豆市八幡にある社会福祉法人あやめ会、特別養護老人ホーム中伊豆の敷地内に防災倉庫を設置した。

